

上下水道工事業における死亡災害事例（1999-2020年）

年	月	発 生 時	死亡災害事例	起因物 (小)	事 故 の 型	労 働 者 規 模
1999	1	16 ～ 17	配水管新設工事において、深さ3.79メートルの掘削構の埋め戻し作業をドラグ・ショベルを使用し行っていて、下請労働者に運転を替わるよう指示した直後に掘削構に墜落し、頭部を強打した。	414	1	30 ～ 49
1999	2	15 ～ 16	下水管理設工事の埋め戻し作業で、バックホーが前進したので平スコップで整地するためキャタピラの後方に入ったとき、後退してきたバックホーの右キャタピラにはさまれた。	142	7	1～ 9
1999	2	16 ～ 17	汚水管布設工事において掘削した溝に布設した塩ビ管を埋め戻すため、トラックで運搬してきた砂をドラグ・ショベルのバケットに入れ約2m後進させたところ、ドラグ・ショベルの後方にいた者を右側のクローラでひいた。	142	7	1～ 9
1999	2	13 ～ 14	サイドローラーを用いた転圧作業をで、ローラーの方向転換をするためローラーを引いて後退しているときに、勾配が15度程の坂道でローラーを引いた状態で下り始め、約25メートル走行した地点で電柱とローラーにはさまれた。	149	7	10 ～ 29
1999	2	21 ～ 22	配水タンクの塗装工事に行った作業員が帰ってこないのを探しに行ったところ、配水タンク内で3名が倒れていた。	514	12	10 ～ 29
1999	2	16 ～	導水管布設のために掘削した幅2.5m長さ3m深さ4mの中に立ち入り、簡易土止支保工設置のため床面作業を行っているときに、法面の片側が縦	711	5	1～ 9

		17	3. 3m横2. 5m深さ1. 27mにわたり崩れ落ち、土砂の下敷きとなった。			
1999	2	11 ～ 12	塩化ビニール製下水道管の埋設工事において、ドラグショベルによる掘削を終えたので木矢板を取りつけるために床ならしを行っているときに、法面が2. 7メートルにわたり崩壊し埋まった。	711	5	10 ～ 29
1999	2	16 ～ 17	1. 下水道工事において、作業終了時にトラッククレーンの荷台に残ったヒューム管二本を隣接する資材置き場に戻すことになり、吊り金具等を荷台に置いた後トラッククレーンを前進させたときに、荷台から落下したヒューム管の下敷きになった。	611	4	1～ 9
1999	2	16 ～ 17	下水道工事現場の深さ2. 4mの立坑内において、切梁の解体を行うため、腹起こしのH鋼に溶接された鉄製梯子をガス溶断していたときに他の支保工部材から連結を解かれていたそのH鋼が高さ1. 3mのブラケットから落下し、H鋼と背後のマンホールのと間に挟まれた。	412	4	1～ 9
1999	3	14 ～ 15	汚水枝管(200mmφ×4m)を深さ約3. 5mの土中に埋設するため、ドラグショベル及び手掘による掘削と、土止め支保工の組立、建て込みを交互に行い、最終建て込みの直前に床ならしをしていたときに土圧により内側に倒壊した支保工部材にはさまれた。	711	5	1～ 9
1999	1	15 ～ 16	上水道管の配管工事において、ドラグショベルで水道管を荷降ろしする作業中、誤って水道管が土止め支保工に接触したため衝撃で土止め支保工が落下し、激突された。	521	6	1～ 9
1999	3	10 ～ 11	下水道工事において、掘削した溝の土止め用鉄板をドラグショベルで吊り下げていたところ、鉄板が溝の底に着地した拍子にワイヤロープのフックが鉄板から外れたため、倒れてきた鉄板と地山との間にはさまれた。	521	7	10 ～ 29
1999	4	18 ～ 19	積載型移動式クレーンで鋼製の矢板3枚を荷降しして、玉掛用ワイヤーロープをフックから外して抜き取ろうとしていたところ、最上部の矢板が反転して崩れたため頭部を挟まれた。	521	5	30 ～ 49
1999	3	13 ～	下水道管布設工事現場で、管布設後一部を埋戻してドラグショベルで簡易土止め支保工を1メートル程引き上げ、次の場所へ水平移動させた時に、掘	711	5	1～

		14	削底にスコップを置き忘れていたので取りに入ったところ土砂崩壊が生じ肩まで埋まった。			9
1999	4	8 ～ 9	雑用水ポンプアップ用の井戸の築造工事において、井戸上部のマンホールから移動用はしごで降りていたときに、誤って7mの箇所から底まで墜落した。	418	1	10 ～ 29
1999	4	16 ～ 17	深さ2メートル、幅95センチメートルの掘削された溝の中での土止め支保工を組み立て作業で、鋼矢板を腹起こしにはめ込む作業をしていたときに、鋼矢板が取り付けられていない箇所の土砂が崩壊した。	711	5	1～ 9
1999	4	8 ～ 9	下水道工事現場において、シールドマシンに連結した台車の解体作業中に台車が転倒し、その下敷になった。	223	5	10 ～ 29
1999	4	13 ～ 14	側溝工事で、2トンドンプトラックからボックスカルバートをミニドラグショベルで吊り上げ左旋回したところ、ショベルが左方向に転倒したため、地面と運転席との間に挟まれた。	142	2	10 ～ 29
1999	4	4 ～ 5	シールド掘進終了したのち、裏込め注入ホースを清掃するため注入機のスイッチを切ろうとしたときに、スライサーポンプが倒れてきてセグメントとの間に挟まれた。	149	5	1～ 9
1999	4	13 ～ 14	下水道工事に支障のある植樹帯の樹木の移植作業を6名で行っていたところへ、居眠り運転RV車がセンターラインを越えてきて、歩道の植樹帯で作業していた作業員を次々とはねた。	231	17	10 ～ 29
1999	4	13 ～ 14	下水道工事に支障のある植樹帯の樹木の移植作業を6名で行っていたところへ、居眠り運転RV車がセンターラインを越えてきて、歩道の植樹帯で作業していた作業員を次々とはねた。	231	17	10 ～ 29
1999	5	10 ～ 11	下水道工事現場において、残土運搬用2tトラックの後部キャッチが半開きになっていたため閉めるようとエンジンをかけたところ、トラックが後退し、トラックと後に停止していたドラグショベルとの間に挟まれた。	221	7	1～ 9
		13	汚水管布設のため法面を1.2～1.8メートル掘削し、掘削面の高さの調整			10

1999	5	～ 14	作業を行っていたときに、法面が2度にわたり崩壊し生き埋めになった。	711	5	～ 29
1999	4	19 ～ 20	ハンドローラーで表層の転圧仕上げ作業を行なっていて、方向転換をしたところへ後ろのスロープをタイヤローラーが下がってきてひかれた。	144	7	10 ～ 29
1999	2	18 ～ 19	ヒューム管の布設後、埋め戻し作業を行っていたときに後進してきたドラグ・ショベルにひかれた。	142	7	10 ～ 29
1999	4	10 ～ 11	深さ3メートル、幅0.9メートル、延長約10メートルの下水道布設用に掘削された溝に落としたスコップを拾いに行き、梯子を上がる途中、土砂が突然約2メートルの幅に渡って崩壊し首まで埋まった。	711	5	50 ～ 99
1999	7	14 ～ 15	77000Vの送電線に近接する場所で、4.9t移動式クレーンで約430kgの配管の設置作業を行っていたところ、ジブの先端部分が送電線に近づきすぎたため、ワイヤーロープに通電し、地上で配管の位置決めのためワイヤーロープを保持していた者が感電した。	351	13	10 ～ 29
1999	7	2 ～ 3	会社へ戻るため、トラックの停めてある20m程離れた駐車場へ向かっているときに、市道を走行してきた乗用車に約16m跳ね飛ばされた。	231	17	10 ～ 29
1999	7	14 ～ 15	下水管を埋設するために掘削した深さ約2メートル、幅約1.7メートル、長さ約6.5メートルの溝の底で、造成地と道路の境界に埋まっていたコンクリート壁に削岩機を使って穴を開ける作業中に、側壁の土砂が崩れて生き埋めになった。	711	5	1～ 9
1999	7	13 ～ 14	ドラグ・ショベルをバックで次の作業場所に移動中、幅2m、高さ約80cmの盛り土を乗り越えるときに、ドラグ・ショベルが転倒し、運転席の扉が開いていたので外に放り出されて下敷きになり、扉枠と地面との間に頭部を挟まれた。	142	2	10 ～ 29
		11	ドラグショベルで塩ビ下水管理設のため幅2m、深さ2.6m、延長14.8m			30

1999	7	7 ~ 12	の溝を掘削して、その後シートパイル6枚を片側に設置し、もう一方に2枚設置し、腹起しの取付けを行おうとしていたところ、シートパイル6枚で土止めした側の法面が崩壊し、溝内の4人が生埋めとなった。	711	5	~ 49
1999	7	11 ~ 12	ドラグショベルで塩ビ下水管理設のため幅2m、深さ2.6m、延長14.8mの溝を掘削して、その後シートパイル6枚を片側に設置し、もう一方に2枚設置し、腹起しの取付けを行おうとしていたところ、シートパイル6枚で土止めした側の法面が崩壊し、溝内の4人が生埋めとなった。	711	5	30 ~ 49
1999	7	14 ~ 15	木造倉庫の解体でスレート屋根、屋根タル木、筋かい、壁材を撤去したところ、柱のみで立っていた倉庫が倒壊してきて母屋等の屋根の支持材が、倉庫内にいたミニドラグショベルの運転者の上に崩れてきて、変形したヘッドガードの屋根部分が頸椎に当たった。	418	5	1~ 9
1999	8	17 ~ 18	下水道管布設工事現場において、管布設後に手作業で舗装作業を行っていたところ、後退してきた車両系建設機械(締固め用機械)にひかれた。	144	7	10 ~ 29
1999	8	14 ~ 15	上水道の送配水管を敷設するため、路面を1.8m掘削して3本目の管を床面に仮置きし、2人が溝の中に入って接合面を合わせてボルト止めをできる状態にまでなったときに、地山が崩壊し1人が生き埋めとなった。	711	5	10 ~ 29
1999	8	22 ~ 23	下水道工事において、マンホールの築造のため道路上で覆工板を開けて解体した土留材を25トンラフタークレーンで搬出作業中、荷を地切りした直後にワイヤロープが振れたため、合図者が約13メートル下に墜落した。	414	1	10 ~ 29
1999	9	9 ~ 10	トラックにバックホーを積載し20%の下り坂で発進したところ、ブレーキが効かなくなり約300メートル暴走して住宅のコンクリート基礎に激突した。	221	17	1~ 9
1999	9	11 ~ 12	下水道管を敷設する工事において、深さ1.7m、幅0.84m、長さ7.4mの掘削溝の中でスコップで底面を均等にならす作業中に、掘削溝側面の土砂が崩壊し生埋めになった。	711	5	1~ 9
		19	軽トラックで交差点を右折しようとしたところ、直進の乗用車と衝突し			10

1999	9	～ 20	た。	221	17	～ 29
1999	9	16 ～ 17	機体重量2tのドラグショベルで矢板(重量600kg)を持ち上げ回転させたところ、ドラグショベルが転倒し、その下敷きとなった。	141	2	10 ～ 29
1999	8	13 ～ 14	橋のたもとに仮置きしてあった鋼矢板(23枚を束ねたもので推定約600kg)を中央橋上に止めた4tダンプトラックに載せるため、ドラグショベルのバケットのフックにワイヤーをかけて吊り上げ左に回転したところ、機体が傾いたため、合図者が中央橋欄干に激突した。	142	3	1～ 9
1999	10	11 ～ 12	緊急地方道路整備工事現場において、深さ約1.8m、幅1.5m、長さ6mの掘削溝の中に入り土止めのための鉄板(3m×1.5m、重さ約800kg)の据え付け作業の補助をしていたところ、溝の側壁の一部が崩れ、鉄板を押し倒したため、この鉄板の下敷きになった。	711	5	10 ～ 29
1999	10	15 ～ 16	水路工事現場で碎石の敷き均し作業中、擁壁の一部(石とコンクリートで形成された擁壁)が倒壊しその下敷きとなった。	418	5	10 ～ 29
1999	10	16 ～ 17	住宅新築工事現場において、浄化槽設置のため深さ2.3メートルの掘削作業を行っていたところ地山が崩壊し、内部でスコップ作業を行っていた者が埋った。	711	5	1～ 9
1999	11	9 ～ 10	幅約3メートルの農道にビニール管等を埋設する下水工事現場において、掘削溝に埋める土のうを積んだダンプ(4t)が農道上を掘削場所に向かって後進中に作業者をはねた。	221	7	10 ～ 29
1999	11	10 ～ 11	下水管理設のための溝をドラッグショベルで掘削し、アルミ製矢板を両側に各9枚設置したところ、矢板が膨らんできたため一旦矢板を撤去し、ドラッグショベルで土砂を排出して溝底に入ったときに土砂が崩れて生き埋めになった。	711	5	10 ～ 29
		13	下水道マンホールの据え付けのため、車両系建設機械でマンホール(重量			

1999	10	～ 14	1. 36t)を吊り上げ国道脇に仮置きしようとしたときに玉掛け用ワイヤーロープ切断し、マンホールが落下したため、掘削した溝の中で床ならしを行っていた者に激突した。	372	4	1～ 9
1999	11	～ 18	土砂採取現場で、土砂を採取中に動きだしたダンプトラックを止めようとしてダンプトラックに乗ったが梅畑に転落した。	221	1	1～ 9
1999	12	～ 16	道路を深さ4m、幅2mで掘削し畑地灌漑用の配水管の埋設を行っていたときに、隣接した掘削箇所の上に敷かれた鉄板上を埋め戻し用土砂を積載したダンプカー(2t)が後進してきたため、鉄板を支えていた側壁が崩れ、ダンプカーが掘削箇所へ転落し、鉄板の下付近で曲管部にコンクリートを巻く作業をしていた2名が崩れてきた土砂の生き埋めになった。	711	5	0
1999	12	～ 16	道路を深さ4m、幅2mで掘削し畑地灌漑用の配水管の埋設を行っていたときに、隣接した掘削箇所の上に敷かれた鉄板上を埋め戻し用土砂を積載したダンプカー(2t)が後進してきたため、鉄板を支えていた側壁が崩れ、ダンプカーが掘削箇所へ転落し、鉄板の下付近で曲管部にコンクリートを巻く作業をしていた2名が崩れてきた土砂の生き埋めになった。	711	5	0
1999	12	～ 9 10	汚水管埋設工事現場において、ドラグ・ショベルでランマーを吊り、深さ約2メートルの掘削溝内におろそうとしたときに、ランマーが振れたので押さえようとしてドラグショベルに近づきショベルのバケットと矢板との間に挟まれた。	141	6	1～ 9
1999	12	～ 9	下水道の浄化センター新築工事現場において、掘削作業をドラグショベルで行っていたときにドラグショベルがH型鋼の切梁(重量1.3トン)に接触したため切梁が落下し、約3メートル下で作業をしていた者に当たった。	412	4	1～ 9
1999	12	～ 9 10	下水道管布設工事で、掘削作業を行っていたドラグショベルのアームが過回転したため掘削孔の脇で掘削作業の確認を行っていた者にバケットが激突して、掘削孔に落下し、さらに掘削孔の中で手掘りで掘削作業を行っていた者の頭に激突した。	142	6	10 ～ 29
			排水路工事現場において、掘削溝内に碎石を投入するドラグショベルの足			

1999	12	13 ～ 14	場としていた鉄板をドラグショベルで吊り上げ移動させようとしたときに鉄板の一部をキャタピラで踏んだため、鉄板が反り返り、その反動でドラグショベルが急旋回して傍にいた者が吊り上げていた鉄板とコンクリート擁壁との間にはさまれた。	142	6	1～ 9
1999	12	17 ～ 18	個人住宅のボイラー取り付け工事を同僚と2人で行い事務所で休憩したのち、帰宅するため事務所(2階)から階段(高さ1.4m)を降りていく途中で転倒し、敷地内の道路上に転落した。	413	1	1～ 9
1999	12	10 ～ 11	上水道管理設工事現場において、上水道管等を埋設する溝(幅65cm、深さ約2m)をドラグ・ショベルで掘削し、その溝内に入れた碎石の均し作業を行うため、鍬を持って溝内に入り作業を行っていたときに、片側の掘削面(勾配約88度)の土砂が崩壊し生き埋めとなった。	711	5	10 ～ 29
1999	10	7 ～ 8	現場責任者以下7名で下水道管内調査のため、セーフティコーン、高圧洗浄車、汚泥吸引車等の設置準備で高圧洗浄車後部の高圧ホースを引き出そうとしていたときに普通乗用車に激突された。	231	17	10 ～ 29
1999	2	18 ～ 19	2トントラックを運転して国道を走行中、対向のワゴン車が居眠り運転で突っ込んできて、正面衝突した。	231	17	30 ～ 49
1999	12	17 ～ 18	下水道工事が終了したので翌日の工事に備え開口部に雪が入るのを防止するビニルシート掛け作業をしていたときに、駐機場所へ移動中のバックホーにひかれた。	141	7	10 ～ 29
1999	9	15 ～ 16	休憩時間中に、道路の反対側に渡るため徒歩で県道を渡っているときに、軽トラックにはねられた。	221	17	1～ 9
1999	12	14 ～ 15	町道に下水管を敷設するため、2人で水系を張り掘削溝底部の管の中心を計測していたが、計測をするのにトラックが邪魔になったためトラックを前方に動かしたところ、トラック前方で水系を押さえていた者をひいた。	221	17	10 ～ 29
		11	ドラグショベルで土止支保工の鋼矢板を打込むため、掘削溝(深さ1.8m)			1～



1999	12	～	の中に入り、鋼矢板を支えていたとき、後方より土砂(土量0.5立方メートル)が崩壊し、その土砂の塊が頭部を直撃した。	711	5	9
2000	2	11 ～ 12	マンホール設置のため、ヒューム管(重量5.2t)を3個の吊金具で移動式クレーンにより立孔に降す作業中、吊金具が破損・脱落して傾いたため、立孔上部に入り込んでいた者がヒューム管と立孔シートパイルの間に挟まれた。	521	4	30 ～ 49
2000	5	15 ～ 16	前年度に掘削を終了した立坑の覆工板受けの中間桁が、取外し可能かどうかを1枚の覆工板を外して確認し、桁の上に落ちている碎石を取除こうとしたときに約11m下に墜落した。	419	1	10 ～ 29
2000	6	9 ～ 10	下水道工事現場で排出されたアスファルトを4tダンプに積んで廃棄物処理場に向け町道を走行中、一時停止のない十字路で左側から直進してきた10トンダンプと出会い頭により正面衝突した。	221	17	1～ 9
2000	10	14 ～ 15	下水道管を埋設する工事で、小型バックホー(機械重量920kg)を使用し掘削作業を行っていたところ、掘削箇所にあった石(推定約540kg)を除去するため、ワイヤーを巻いてバケットで吊り上げようとしたときに後部が浮き始め、重し代わりにキャタピラに乗っていた者が垂直状態となったバックホーから転落しバックホーの下敷きとなった。	142	6	10 ～ 29
2000	4	15 ～ 16	アスファルト再生工場内で、ブレーカ(機体重量6.4t)でアスファルト廃材の破碎作業中、機体の向きを変えようとしてバランスを崩して、角度45度、長さ約4mのガラ山法面に横転し、機体に挟まれた。	145	1	10 ～ 29
2000	8	11 ～ 12	上下水道管布設工事において、深さ2.28m、幅1.1mの掘削溝に下水道管を布設し、鋼製矢板を引上げ碎石及び発生土で深さ1.3mまで埋戻した後、掘削溝に水道管を布設するため立入ったときに土砂(高さ1.3m、長さ2.1m、幅0.6m)が崩壊して腰まで埋った。	711	5	10 ～ 29
2000	3	16 ～ 17	下水道管布設工事において、ドラグショベルで深さ2.5mまで掘削して本下水道管・マンホールを布設して、埋め戻し(深さ1.5mまで)作業中、突然、後方の地山が崩壊し、膝下まで埋没し、そのショックで意識を失った。	711	5	1～ 9

2000	4	12	配水管布設替工事において、直径10cmの配水管の布設を行っていたところ、片側交互通行の指示をしていたガードマンの指示を無視した乗用車が	231	17	1～9
		13	工事現場に突っ込んできてはねられた。			
2000	2	14	下水道管敷設現場の残土、ガラ置場で、貨物自動車にガラの積込作業を行うため残土上に停止していたドラッグショベルを移動させたときに、ド	142	2	10～29
		15	ラッグショベルが転倒して運転席から放り出され、その下敷きとなった。			
2000	11	13	宅地造成工事に伴う下水管埋設工事で、ドラッグショベルで幅2m、長さ10	711	5	10～29
		14	m、深さ5mの掘削を行い、溝底部で排水管の位置調整を行っていたときに片側の土砂が崩壊し、全身生埋めとなった。			
2000	12	11	下水管敷設工事において、掘削溝の中で作業中にドラクショベルのバケツ	142	7	1～9
		12	トで吊った地盤改良材約1tの袋とコンクリート擁壁との間にはさまれた。			
2000	8	11	内径80cmの鑄鉄管を布設する工事において、地下約60mのところでは延長	715	11	1～9
		12	1,000mの鑄鉄管内の清掃作業を行っていたところ、ずい道と鑄鉄管の隙間に充填したモルタルの硬化熱により鑄鉄管内の気温が上昇したため、9人が急いで出口に向かったが最後尾から2名は自力で脱出できず熱中症となった。			
2000	11	10	下水道工事の立坑内において、支圧壁解体ための足場の盛替え作業中に	411	1	1～9
		11	1.4m下に墜落した。			
2000	1	10	下水道管布設工事において、3.4tの碎石を積んだ2tダンプを傾斜8度の坂道の上端に止め、サイドブレーキをかけて運転席から離れ、携帯電話で話をしながら坂道を下っていたときにダンプが坂道を逸走してきて激突された。	221	6	50～99
		11				
2000	1	19	国道の舗装部分の幅測定をしていたところ、進行してきた乗用車にはね	231	17	300～499
		20	れた。			

2000	2	9 ～ 10	村道の側溝の仮設管(長さ約32m、直径約9cm)を側溝開口部から軽トラックで牽引して引き出す作業で、引き出す仮設管を両手で抱えていたところ、牽引された仮設管のジョイントが側溝蓋に引っかかって外れた反動で仰向けに押し倒されて後頭部を路面に打った。	419	2	1～ 9
2000	3	13 ～ 14	集金業務のため、自転車で横断歩道を渡ろうとしたときにトラックにはねられた。	221	17	1～ 9
2000	6	13 ～ 14	推進工事の発進立坑において、マシンの架台としていたH鋼を立坑内より撤去のため、立坑上まで橋型クレーンで吊り上げ走行させたところ、吊りクランプからH鋼が外れて立坑内へ落下し、立坑内の土止め支保工の切梁等にあたったため仮置されていた腹起こしがブラケットより外れ、立坑内にいた者に当たった。	372	4	50 ～ 99
2000	1	14 ～ 15	下水道整備工事現場において、マンホールを覗き込む姿勢で配水管の測量を行っていたときに、隣接した場所で掘削土の搬出を行っていたダンプトラックに激突された。	221	6	1～ 9
2000	2	10 ～ 11	管渠築造工事現場において、管渠を埋設するためドラグショベルで幅1.2m、深さ約4mに掘削し、土止めを行うため底面に入って、長さ約4mの軽量鋼矢板の建て込み作業をしていたときに、掘削側面が崩壊し、生埋めになった。	711	5	10 ～ 29
2000	8	9 ～ 10	トラック(積載荷重2t)に載せていたドラグ・ショベルを地上に降ろす作業をしていたところ、地上から荷台に掛け渡した2本のアルミ製の道板(勾配15度)の1本が外れてドラグ・ショベルが横転し、地面とヘッドガードの柱との間に頭部を挟まれた。	142	1	1～ 9
2000	9	11 ～ 12	2. 9t吊り積載型移動式クレーンでバケツを吊り立坑内(深さ6.4m)に降ろしてコンクリートの打設作業を行っていて、最後のコンクリート量の調整を行い、半分ほど残ったコンクリート(推定400kg)を上を引き上げ中にワイヤーロープが切れてバケツが立坑内に落下し、中で作業中の者の背中を直撃した。	212	4	10 ～ 29

2000	11	9 ～ 10	配管の撤去作業のため、屋根に上がって解体物の下見をするために梯子を昇っているときに転落した。	371	1	1～ 9
2000	7	15 ～ 16	H型鋼の溶断箇所をガス溶断し内部に詰っていたコンクリートを手持ブレイカーで取り除いていたところブレイカーの先が挟ったため、同僚がバールでこじあげようとしていたときにH型鋼4本(約200kg)が落下して手前に倒れその下敷きになった。	418	5	10 ～ 29
2000	3	11 ～ 12	下水管理設工事の終了後、漏水が認められたため再度土止め支保工などを設けず掘削しての原因調査を行っていたときに地山が崩壊し、生埋めになった。	711	5	10 ～ 29
2000	9	16 ～ 17	配水管の移設工事が終了し、アスファルトカッターをパワーゲート付トラックの荷台に積載中、アスファルトカッター(自重450Kg)がパワーゲート部より落下し頭部を直撃した。	149	4	0
2000	5	11 ～ 12	下水道工事現場で長さ約4.5m、幅1.0m、深さ2.4mの明り掘削して塩化ビニール製パイプ(長さ4.15m)を布設し、砂で中詰をしたのち土留め支保工を取り外したところ地山の一部分が崩壊して生埋めになった。	711	5	30 ～ 49
2000	8	17 ～ 18	下水道工事において、掘削終了後の仮舗装を行っていたところへ坂道に止めていたダンプトラックが後退してきてひかれた。	221	6	10 ～ 29
2000	11	14 ～ 15	市道を開削してダクタイル圧送管を布設し、空気圧縮機で圧縮空気(圧力はkg/cm <sup>2</sup> )を管内に送り込む作業をしていて15分位経過したときに突然ダクタイル管(約2mの切管)が一気に吹き飛んできて激突された。	312	15	1～ 9
2000	5	15 ～ 16	山の斜面に水道パイプを埋め込む作業中、小型ドラグショベルがバランスを崩したので約2m下の山林に飛び降りたが、その上にドラグショベルが落下しその下敷きになった。	142	2	10 ～ 29
2000	12	14 ～	資材置場において、コンクリート集水枡をトラック荷台からドラグショベルで吊り降ろす作業の合図してバケツに頭部を激突された。	142	6	1～ 9

		15				
2000	1	13 ～ 14	下水道工事において、道路を掘削して掘削下部に入り土留め鋼矢板を保持しているときに、背部のコンクリート擁壁が倒壊し下敷きになった。	419	5	30 ～ 49
2001	1	17 ～ 18	工事終了後、道路上において前日の雨で資材置場から流れ出た土砂を清掃しているときに、乗用車にはねられた。	231	17	1～ 9
2001	1	16 ～ 17	農業集落排水管路工事において、同僚と道路上で測量作業中に、バックしてきた4tダンプトラックの後輪にひかれた。	221	7	1～ 9
2001	1	17 ～ 18	片側1車線を交通止めした作業が終了したので、センターライン中央に置いてあったバリケード(H形鋼の上に柵を6枚並べて固定したものをドラグショベルで1本吊りし道路端に移動しようとして地切りしたときに、重心がずれてバリケードを保持していた者に激突した。	142	6	1～ 9
2001	1	13 ～ 14	送水管布設工事において、現場から出た土を一旦仮置きしていたのを別の場所へ搬出するためバックホーを運転していたところ、横転して頭部をはさまれた。	142	2	10 ～ 29
2001	2	9 ～ 10	下水道管を埋設するために掘削した縦穴内部において底部の整地作業を行っていたときに、縦穴側面の地山が崩壊して土石が直撃し、はずみで倒れた縦穴内部にあった岩石に頭部を打ちつけた。	711	5	1～ 9
2001	2	15 ～ 16	マンホール管を据付けた掘削穴内で箱尺を持って写真撮影の補助をしていたところ、隣接する工事現場のバックホーのアームが旋回してきて、そのバケットで穴内のマンホール管を押し動かしたため、マンホール管と掘削面(土留め)との間にはさまれた。	142	7	1～ 9
2001	2	9 ～ 10	浄水場沈殿地コンクリート保護工事において、養生シートに前日の雨水が溜まって足場が危険な状態になったため、養生シートを破って水を抜く作業をしていたときに、ローリングタワー(最上部の手すりまで436 c m)から	411	1	10 ～ 29

			転落した。			
2001	3	17 ～ 18	墓地の石積み擁壁補強工事において、擁壁の養生(支え等)を行わずに44cm離れた箇所でもかり掘削(深さ約1m、幅1.5m)を行い、その中に入って土止め支保工用の矢板を設置していたところ、擁壁が崩れたためその下敷きになった。	418	5	1～ 9
2001	3	8 ～ 9	4tトラックにウマ(鋼製のスロープ)を乗せるため車両系建設機械で吊り上げたところ、スロープの中央部分が折れて背中に当たった。	379	6	1～ 9
2001	4	15 ～ 16	バケット容量0.25m <sup>3</sup> のドラグショベルで土止め用矢板の部材(約1200kg)を吊り上げて旋回中ドラグショベルが倒れたため地面とドラグショベルのキャビンのドア支柱との間に挟まれた。	141	2	10 ～ 29
2001	1	11 ～ 12	簡易水道工事において、取水ボックス底部のコンクリートを打設後、降雪及びコンクリート養生のため上面をビニールシートで覆い、内部に練炭コンロを3個つり下げて作業を終了したが、その夜現場の様子を確認しに行ったらまま連絡が取れなくなり、翌日、取水ボックス内で死亡していた。	529	12	1～ 9
2001	4	15 ～ 16	水道管の修繕作業を終え、使用したドラグショベルをトラックの荷台に載せるため道板上を登っていたところ、ドラグショベルが後ろ向きに転落し、その下敷きになった。	142	2	10 ～ 29
2001	4	17 ～ 18	工事の資材搬入に使用していたダンプトラックのあおりを閉じようとしていたとき、後進たためひかれた。	221	7	1～ 9
2001	4	16 ～ 17	宅地造成工事において、下水管敷設作業を終えて現場を立ち去ろうとしたときに、掘削溝の側壁が突然崩れ、掘削溝の中で床ならし作業をしていた者が逃げ切れずに、崩れてきた土砂の塊と掘削溝の側壁との間に下半身を挟まれた。	711	5	1～ 9
2001	5	9 ～	排水路付替工事現場において、バックホーを移動させるため路肩に敷き込んである鉄板を斜めに横切る形でバックしたところ、キャタピラーが敷鉄	417	3	10 ～

		10	板の端を噛んだため敷鉄板が跳ね上り、鉄板上にいた者が地面の上に落下した。				29
2001	5	17 ～ 18	下水管の更新工事において、マンホール内で製管機を組み立てているときに、止水していた上流のポンプ場からの送水が開始されたため、150m下流の下水処理場まで流された。	713	10	～	30 49
2001	6	13 ～ 14	水道管布設工事において、明り掘削溝に土砂の埋め戻し作業をしていたドラグ・ショベルが1mくらい後進したときに、後方で道路面をホウキで掃除していた者を右側履帯でひいた。	142	7	1～	9
2001	6	16 ～ 17	下水管の布設工事において、資材が不足したため会社に資材を取りに行きライトバンで現場に戻る途中、地方鉄道の踏切で普通電車と衝突した。	231	18	～	10 29
2001	6	13 ～ 14	トラッククレーン(4.9t)で雨水幹線用のコンクリート管(内径1.1m、質量2.0t)を地中(掘削深さ約4m)に降し、コンクリート管から玉掛ワイヤーを外しているときに掘削壁とコンクリート管との間に挟まれた。	212	7	～	10 29
2001	7	17 ～ 18	下水道工事現場で、町道に掘った深さが約2.5mの溝に塩化ビニール製の下水道管を埋設作業中に土砂が崩れ内臓が破裂した。	711	5	1～	9
2001	7	16 ～ 17	残土置場において、2tダンプの荷台後方で搬出土が路面に落ちないように均していたときに、後進してきた同僚の運転するホイールローダ後部とダンプ後部との間に胸部を挟まれた。	141	7	1～	9
2001	7	9 ～ 10	県道の歩道に埋設した下水道管の手直し作業のため、ドラグショベルで長さ約5.5m、幅約1.8m、深さ約2mの溝を掘削し、掘削溝内で管の埋設深さを確認しているときに路肩側の土砂が崩壊し下敷きになった。	711	5	1～	9
2001	8	17 ～ 18	午後3時すぎから体調不良となって作業時間のほとんどを休息し、作業終了後も現場内で休息していたが意識がはっきりしなくなったため病院に移送したが熱中症により死亡した。	715	11	1～	9
			砂防工事において、水道管敷設に使用するガス溶断の準備でアセチレン容				

2001	8	20 ～ 21	器と酸素容器を積載した2tダンプトラックを後退させて停止したところ、アセチレン容器が転倒して容器弁付近からアセチレンガスが噴出發火し、その火が酸素容器を加熱して破裂し、付近にいた者に破裂したときに破損したトラックの荷台のあたりが激突した。	331	15	1～ 9
2001	9	9 ～ 10	集落排水工事において、掘削溝に排水管を埋設し排水管の上に砂をかけたが、排水管の位置がずれていたため、掘削溝に入り排水管の位置を直して掘削溝から出ようとしたときに掘削溝の側壁が崩落し生埋めになった。	711	5	10 ～ 29
2001	10	10 ～ 11	上水道管布設工事において、掘削溝(深さ2.5m、幅2.2m)の中で溝内に仮置した管(長さ6m、直径0.8m)を移動式クレーン(吊り上げ荷重25t)でつり上げて布設箇所へ移動しているときに、土止め支保工の切梁と管との間に頭部を挟まれた。	212	6	1～ 9
2001	10	11 ～ 12	工業用水管の布設工事において、土止め支保工を設けた掘削床に用水管をドラグ・ショベルで降ろし、玉掛け具の繊維スリングを外そうと管の先端部に近づいたとき、運転者が誤ってショベルのバケットを上昇させたため、管と支保工の切梁との間に胸を挟まれた。	142	7	1～ 9
2001	10	8 ～ 9	4tトラックから鋼矢板60枚を降ろす作業が終わり、次の作業に移るため、4tトラックの後部とその後に駐車していたトラック(移動式クレーン付)の間を通り抜けようとしたときに、荷降ろしが終了したトラックが帰社しようとしてエンジンを掛けたところギアがバックに入っていたため、4tトラックが40～50cm後退し、トラック(移動式クレーン付)と4tトラックとの間に挟まれた。	221	7	10 ～ 29
2001	10	16 ～ 17	下水道の築造工事において、質量約800kgの覆工板を開口部に敷くためドラグショベルで約40度吊り上げた状態で覆工板の下にあった木材を取り除こうとしたときに、覆工板が横滑りしたため身体を挟まれた。	142	7	10 ～ 29
2001	11	9 ～ 10	下水道築造工事において、下水管4mを埋設するため深さ1.8mに掘削した場所の床付作業を行っていたときに、土砂が崩れ生埋めになった。	711	5	10 ～ 29
			主要地方道の下水幹線内にスクリーン(格子状のごみよけ柵)を設置する工			



2001	11	11 ～ 12	事で、1車線を道路規制して道路上で作業打合せを行っていた作業員4名とガードマン1名のところに、反対車線を走行していた10tダンプが中央分離帯を乗り越えてきて打合せ中の作業員らに激突し、1名死亡、4名が重軽傷を負った。	221	17	1～ 9
2001	12	11 ～ 12	古いヒューム管を塩ビ管に替える工事において、土止め支保工の設置を怠ったために2.5m掘削した法面が約9?崩壊し生き埋めになった。	711	5	1～ 9
2001	12	13 ～ 14	下水道工事現場において、マンホール用のコンクリート土管(直径約1.8m、質量約3.8t)を吊上荷重25tのホイールクレーンで吊上げ立坑上に移動していたとき、土管に取り付けていた玉掛け用のアイボルトが切断したため土管が落下し、近くで作業していた者が下敷きになった。	372	4	1～ 9
2001	12	16 ～ 17	雨水管渠ボックスカルバート(14.5t)の据付作業で、ボックスカルバートを45tラフタークレーンで吊り上げ微調整を行っていたときに吊り上げたボックスカルバートが振れ、ボックスカルバートと土止め用矢板との間に頭部を挟まれた。	212	7	10 ～ 29
2001	12	13 ～ 14	農業集落排水事業の下水道管敷設工事において、下水道の支管を本管へ繋ぐためドラグショベルで掘削し、埋設してあった本管を確認しようとして底に降りていたときに、支管と本管の交差部分の土砂が崩壊し(約1.5?)生き埋めになった。	711	5	10 ～ 29
2001	12	13 ～ 14	下水道管を敷設する工事において、掘削した溝に簡易矢板による土止め支保工を設置し、管敷設が終った区間について埋め戻すため作業員全員で矢板を人力で引き、残った腹起こしを撤去していたときに腹起こしが倒れてきて下敷になった。	711	5	1～ 9
2001	12	6 ～ 7	土木工事現場に向けてワゴン車で国道を走行中、対向車線にはみ出して対向のトラックと衝突した。	231	17	30 ～ 49
		13	深さ3mの掘削溝へ導水管を布設する作業で、掘削した側面から道路標識柱			

2001	12	～ 14	の基礎コンクリート部分が突き出ていたため、この基礎コンクリートの下部をツルハシで掘っていたときにコンクリートの塊部分が突然剥離して倒れ、土留め用のシートパイルとの間で押しつぶされた。	418	5	1～ 9
2001	12	～ 14	下水道管敷設工事において、道路を幅約1.5m、長さ約9.5m、深さ約2mにわたり掘削していたが掘削箇所から岩が出てきたので削岩機を使用して砕いていたときに、土砂が崩落してきて砂と石が固まった層の断片と砕いていた岩との間に頭部をはさまれた。	711	5	10 ～ 29
2001	8	～ 15	重さ約0.4tの鑄鉄管をバックホー(2.9t)で吊り深さ2.64mの掘削坑に布設するとき、土留のサポートを避けるため繰り返し坑内で鑄鉄管を移動をさせていて、4回目くらいに鑄鉄管を吊上げたところ荷が動いて管と土留壁との間に挟まれた。	212	6	10 ～ 29
2002	1	～ 12	下水道工事において、ドラグショベルで掘削した幅0.9m、深さ3.76mの溝内に入りジョレンで掘削面の整形作業中、片側の掘削面が崩れ生き埋めとなった。	418	5	1～ 9
2002	1	～ 17	配水管の移設工事の完了後、断水作業に伴う濁水処理確認のため道路上の消火栓バルブ脇で点検作業をしていたときに、下水道工事(他社施工)の埋め戻し用土砂をバック走行で搬入してきた4tダンプトラックに轢かれた。	221	17	10 ～ 29
2002	2	～ 7	ドラグショベルを2tダンプに積み込むため、バケットをダンプの荷台に置いて後ろ向きにクローラの後端を浮き上がらせて荷台に載せた後、アームを旋回してバケットを地上に接地させて車体を荷台に積み込もうとしたときに、クローラの後端がダンプの荷台から外れてドラグショベルが横転し、運転者が運転席から投げ出されヘッドガードと地上との間に挟まれた。	142	1	10 ～ 29
2002	3	～ 9	積載型トラッククレーン(つり上げ荷重2.93t)の荷台から小型ドラグショベルを吊り下ろしていたところ、トラッククレーンが転倒しトラッククレーンの操作者がトラッククレーンに挟まれた。	212	7	30 ～ 49
			農業用水のボックスカルバート下に配水管を通す作業で、ボックスカル			

2002	5	10 ～ 11	バートの南側を幅50cm、深さ約2m、長さ約2mにわたりパワー・ショベルで掘削し、掘った溝の中に入って人力で配水管を通す穴を掘削中に側壁が崩れ生き埋めとなった。	711	5	1～ 9
2002	5	15 ～ 16	下水道工事において、歩道部分に管を布設し埋め戻しのちバックホウで敷鉄板（約800kg）を敷き並べるため、バケットのフックに玉掛け用ワイヤーを掛け鉄板の荷掛け用の穴にC形フックを掛けて吊り上げいつたん地面に垂直に同鉄板を置いたところ、穴からフックが外れたので近くにいた者が後ろに下がったときに車道に出てしまい、走行してきたトラックに跳ねられた。	221	17	30 ～ 49
2002	5	9 ～ 10	管渠築造工事においてマンホール（立坑）の補修、清掃を行うための作業準備をしていたが、道具を忘れたので相方が自宅に道具を取りに行き現場に戻ってきたところ、姿が見当たらなかったため全工区内を探したところ、他発注の完了済み下水マンホールで死亡していた。	414	1	1～ 9
2002	5	16 ～ 17	下水道工事現場にセメント袋を運ぶため、袋を担いで国道を横断しようとしたところ、右方から走行してきた大型貨物自動車（最大積載量13.5t）に激突した。	221	17	1～ 9
2002	5	15 ～ 16	配水管の埋設終了後、仮設鉄板を埋め戻したところに敷き直すため、ドラグショベルを後退させたときに後方にいた者を轢いた。	142	7	1～ 9
2002	3	11 ～ 12	深さ約5m、幅約3mの掘削溝に雨水管（長さ3.2m、Φ1650mm、約3.8t）を収め、玉掛けに使用したナイロスリング（12m、幅10cm）をドラグショベルで引き上げているときに、スリングの端部が管の下部に引っ掛かったため、簡易土留めの支柱とドラグショベルで引っ張られていたナイロスリングとの間に上半身を挟まれた。	142	7	10 ～ 29
2002	4	9 ～ 10	下水道排水施設工事で、埋め戻される掘削土の土質改良を行う土質改良プラントの施工状況を写真撮影するため、黒板にかがんで記入していたときに、後退してきたトラクターショベルに轢かれた。	141	7	1～ 9

2002	8	14 ～ 15	浄化槽内にある高さ約7.5m足場上で、解体した部材を地上に上げる作業中に足場板と足場板の隙間から墜落した。	414	1	1～ 9
2002	6	9 ～ 10	携帯用グラインダーにワイヤーブラシを取り付けて錆びた手斧の歯を磨いていたときに、マスク代わりに顔に巻いていたTシャツがワイヤーブラシに巻き付いて首が絞まった。	153	7	10 ～ 29
2002	9	7 ～ 8	トラックで走行中、右後輪がバーストして中央分離帯に接触しそうになったので左側にハンドルを切ったところ、走行車線を飛び出してしまい、助手席にいた者が車外に放り出されて防音壁に激突した。	221	17	30 ～ 49
2002	9	13 ～ 14	水道管改良工事において、完了部分の気密テスト（水圧試験）のため、道路上のマンホール（直径60cm、深さ1.2m）を開けマンホール内の圧力計を点検していたときに、マンホールの近くに駐車していたワゴン車が発進したため轢かれた。	231	7	1～ 9
2002	10	0 ～ 1	掘削箇所に下水道用の塩ビ管3本を設置する作業で、土止め用の矢板を設置して腹起こしを仮止めするため掘削箇所に入って作業を行っていたときに、掘削箇所の片側法面が長さ約10m、幅約1m、深さ約2.5mに亘って崩落し2名が埋まった。	711	5	100 ～ 299
2002	10	0 ～ 1	掘削箇所に下水道用の塩ビ管3本を設置する作業で、土止め用の矢板を設置して腹起こしを仮止めするため掘削箇所に入って作業を行っていたときに、掘削箇所の片側法面が長さ約10m、幅約1m、深さ約2.5mに亘って崩落し2名が埋まった。	711	5	100 ～ 299
2002	10	16 ～ 17	中央市場敷地内で外溝の工事中、直径600mmの埋設配管（塩化ビニール製、長さ4m）を地面から深さ2.65mの位置に設置し、配管内に入り込んだ土砂を取り除くため掘削場所に入って作業をしていたときに、土止め支保工下部の土砂が崩れたため上部にあったコンクリート塊（約900kg）が落下して激突された。	523	5	10 ～ 29
2002	10	0 ～	市道交差点でマンホール蓋の交換作業をしていたときに、走行してきたラ	231	17	1～

		1	イトバンに跳ねられた。			9
2002	11	11 ～ 12	下水道新設工事において、ボックスカルバートの内部型枠を脱型しているときに、管路のために空けられている横開口部（幅2.3m、高さ1.8m）から約6.4?の埋め戻してあった土砂が入り込み、作業員2名が生き埋めとなり1名が死亡した。	523	5	1～ 9
2002	11	16 ～ 17	下水管理設工事において、振動コンパクターを使用して路盤碎石の転圧をしていたときに、後方から方向転換をするため後退してきた2 t ダンプと振動コンパクターのレバーとの間に挟まれた。	221	7	100 ～ 299
2002	11	16 ～ 17	工事終了間際に、ドラグショベルのライトの前で作業日報を記入していたときに、4 tトラックがバックしてきたため荷台とドラグショベルのタイヤとの間に挟まれた。	221	7	30 ～ 49
2002	11	15 ～ 16	下水道管布設工事において、簡易舗装のための碎石を2 t 積ダンプから投入しているとき、別の2 t ダンプで待機中の者が碎石投入中のダンプに近づき、下降してきた荷台と車体との間に挟まれた。	221	7	10 ～ 29
2002	6	8 ～ 9	雨が降っていたので会社事務所で待機中に、責任者から近くのコンビニエンスストアで缶コーヒーを買ってくるよう指示され、買いに行ったときにストアのトイレで転倒して頭部を激突した。	417	2	1～ 9
2002	12	14 ～ 15	水道連絡管布設工事において、ダンプトラックで残土を集積場所に運んで現場に戻り、次の残土を積み込むため後進していたときに、左後方でとんぼを用いて土均しをしていた者を後輪でひいた。	221	7	1～ 9
2002	11	9 ～ 10	水道工事後の舗装復旧工事で、碎石の敷均しのためドラグ・ショベル（0.2?）を後退させたときに、後方で敷均しを手伝っていたダンプ運転手をドラグ・ショベルで轢いた。	142	7	10 ～ 29
2002	12	15 ～ 16	排水管敷設工事において、社長と労働者6名でバックホーで掘削して排水管（径15 c m×長さ4m）を敷設し、別のバックホーで埋め戻しながら作業を進めていたときに、横壁の土砂が約5.3mにわたり崩壊し、穴の中にいた4名のうち管の設置据付を行っていた3名が生き埋めとなり2名が死亡した。	711	5	1～ 9

2002	12	15 ～ 16	排水管敷設工事において、社長と労働者6名でバックホーで掘削して排水管（径15cm×長さ4m）を敷設し、別のバックホーで埋め戻しながら作業を進めていたときに、横壁の土砂が約5.3mにわたり崩壊し、穴の中にいた4名のうち管の設置据付を行っていた3名が生き埋めとなり2名が死亡した。	711	5	1～ 9
2002	10	13 ～ 14	建造中のコンクリート水槽の上を歩行中、開口部より4m17cm下の水槽のコンクリート底に墜落した。	418	1	1～ 9
2002	12	7 ～ 8	資材置場の通路で携帯電話で話をしていたところ、他の現場に向うために通路を後進してきたトラック（積載型小型移動式クレーン付き）の左後輪に頭部を轢かれた。	221	6	10 ～ 29
2002	12	9 ～ 10	家庭の排水を流し込むマンホール（内径40cm、深さ1.1m）の中に頭から上半身を入れて、マンホール底の家庭排水管（塩ビ製直径15cm）と町下水管との接合部周囲にモルタルを手作業で盛っていたときに、頭からマンホール底に落ち込んで自力で脱出できなくなり、もがいているうちに力尽きた。	418	1	1～ 9
2003	1	17 ～ 18	埋め戻し土を、ドラグ・ショベル（バケット容量0.5m <sup>3</sup> ）のバケットで均し作業を行っていたときに、近くで竹ぼうきで道路の清掃作業を行っていた者に気付かずドラグ・ショベルのクローラでひいた。	142	7	1～ 9
2003	1	7 ～ 8	下水道管渠（きょ）築造工事で、当日に使用する資材の不足に気づいて乗用車で取引先に資材を取りに行く途中、信号のない交差点で左から来た4tトラックと出合い頭に衝突した。	221	17	10 ～ 29
2003	1	8 ～ 9	排水管敷設工事における土止め支保工の解体作業で、矢板をつるために油圧ショベルをバックさせていたところ、油圧ショベルのアームが大きく振れ、その下にいた作業者の頭にバケットが激突した。	142	3	1～ 9
2003	1	3 ～ 4	排水路工事において、床掘した個所にコンクリート製の集水ます（質量2t）をホイールクレーンでつっていたところ、集水ますが玉掛けロープから外れ落下して設置済みのボックスカルバートに当たり、その衝撃で割れた集水ますの破片に激突された。	372	4	1～ 9

2003	1	14 ～ 15	下水管の布設工事でリースしていた防音ハウスの解体作業中、天板（防音パネル、寸法1×2m、質量約50kg）の上で屋根材を取り外していたときに、乗っていた天板とともに防音ハウスの内部（高さ約1.2m）に墜落した。	418	1	10 ～ 29
2003	1	15 ～ 16	簡易土止め支保工を設置した掘削溝から約1.2m離れた市道マンホールに下水本管を繋ぐため、軽量鋼矢板を打ち込み深さ約2m掘削した時点で一般車両通過のため作業を中断しているときに、市道マンホール付近を通過した者が掘削個所に墜落し、軽量鋼矢板の先端で腹部を強打した。	414	1	30 ～ 49
2003	2	0 ～ 1	上下水道工事の仮置場において、ダンプに積み込む残土をドラグ・ショベルで寄せ集めていたところ、盛土（高さ約90cm）の斜面でドラグ・ショベルが転倒し、運転席から投げ出されてドラグ・ショベルの下敷きになった。	142	2	50 ～ 99
2003	2	14 ～ 15	農業用排水路工事で、地下2.5m付近に塩ビ製の管（直径：25cm、長さ：4m）を埋設し、深さ1mほど埋め戻した後に支保工を取り除いて残りの埋め戻し作業を行っていたところ、アスファルト（厚さ5cmほど）路面下部の砕石部分が崩れてきて胸部付近まで埋まった。	711	5	1～ 9
2003	2	14 ～ 15	水道管（塩ビ管）布設工事において、ドラグ・ショベルで溝掘削を行った後に溝の中に入って塩ビ管（3m）を据え付け、退去しようとしていたとき片側の掘削面が幅約60cm、深さ約1.8m、長さ約7.3mにわたって崩壊し、胸まで土砂に埋まった。	711	5	1～ 9
2003	2	16 ～ 17	マンホールの移設工事において、ドラグ・ショベルで掘削した溝（深さ2.7m、長さ6.1m、幅2.5m）の中でマンホールの位置出し作業をしているときに、掘削面が長さ3.8m、巾0.5m、高さ1.2mの範囲にわたって崩壊し、土砂の下敷きになった。	711	5	50 ～ 99
2003	2	13 ～ 14	舗装された道路の砂等を搭乗式自動清掃車で清掃していたときに、搭乗式自動清掃車が横転しその下敷きになった。	169	2	1～ 9

2003	2	10 ～ 11	ほ場整備関連工事において、農業用配水管を布設するために掘削した個所の土止め支保工を「作業し難い」ため、取り外して作業を行っていたときに、法面（のりめん）の一部が崩壊し土砂に埋まった。	711	5	30 ～ 49
2003	3	8 ～ 9	配水管埋設工事において、ミニドラグ・ショベル（機体質量420kg, 車幅62cm）で転圧機をつり上げて町道（幅162cm）を移動していたときに、町道から高さ90cm下の田んぼに墜落してミニドラグ・ショベルの下敷きになった。	142	1	1～ 9
2003	3	11 ～ 12	配送されてきた水道管（径1.5m、長さ0.8m、質量1.77t）を、傾斜（約8度）している作業ヤードに止めたトラック上で、荷締めワイヤを取り外してベルトスリングを通すため、管に被せられていたブルーシートに穴を開けようと荷の下手（傾斜の）側で作業していたときに、荷のバランスが崩れて落下し下敷きになった。	521	5	50 ～ 99
2003	4	13 ～ 14	上水道配水管布設替工事において、市道に設置された上水道制水弁ボックスの蓋をワイヤブラシで清掃作業中に、現場近くの住民が運転する乗用車がバックで走行してきてひかれた。	231	17	1～ 9
2003	4	10 ～ 11	下水道の処理施設新築工事において、足場の上で他の労働者が足場上に運んできた鉄筋を整理していたときに、足場上から転落した。	411	1	10 ～ 29
2003	4	13 ～ 14	残土の積込作業で、普段使用しているミニドラグ・ショベル（車体質量2.8t）が他で使用巾中であつたため、責任者の許可を得ずにドラグ・ショベル（バケツ用量0.25m <sup>3</sup> 、車体質量6t）に搭乗して道路を移動させていたときに、道路路肩から3m下にドラグ・ショベルごと墜落し、運転席から放り出されて立木とドラグ・ショベルとの間に腹部をはさまれた。	142	1	10 ～ 29
2003	5	13 ～ 14	現場で使用するグレーチング枠を軽トラックに積んで走行中、対向車のバスと正面衝突した。	221	17	1～ 9
		15	シールド推進工事において、発進たて抗の8段目支保工の上段の腹起こし材（長さ8m、質量5tのH鋼）をいったん坑内に仮置きし、所定の位置に移動			



2003	5	～	式クレーンで設置するためH鋼に玉掛けして地切りしたとき一端が土止め壁に掛ったので、体重をかけて外そうとしたときに、材がはね上がり激突された。	611	6	1～ 9
2003	5	18 ～ 19	植木の植え替え作業をドラグ・ショベルで行い、帰社するためドラグ・ショベルを2tトラックに載せるため、トラックを道路に止めて道路から約65cm高い隣接の空地からトラックの荷台に載せようとしたときに、ドラグ・ショベルが転倒しその下敷きになった。	142	2	1～ 9
2003	5	10 ～ 11	下水道築造工事において、深さ2.7mの掘削溝内で土止め支保工の腹起こしを設置していたときに、掘削溝の側面が崩壊し鋼矢板と腹起こしとの間にはさまれた。	711	5	1～ 9
2003	6	9 ～ 10	下水道管布設工事において、ブレーカーとドラグ・ショベルによる掘削作業中に、掘削側面が崩壊し掘削床にいた者が生き埋めになった。	711	5	10 ～ 29
2003	6	9 ～ 10	ドラグ・ショベルで道路の舗装（アスファルト部分）をはがしダンプに載せるためショベルを後退させたところ、運転席を後方に向けていたため、ショベル自体が前進となって左前方のタイヤでひかれた。	142	7	1～ 9
2003	7	8 ～ 9	上水道の石綿セメント管更新工事において、資材置場でドラグ・ショベルの排土板とバケットで鉄板（153cm×305cm×2cm）をはさんで移動させるため、ショベルを後進させたときに後方にいた者をひいた。	142	7	10 ～ 29
2003	7	13 ～ 14	農業用排水管路工事において、深さ約2.5mを掘削して土止め支保工を設置するため溝内に入って軽量鋼矢板を建て込む作業を行っていたときに、掘削箇所土壁が崩れ生き埋めとなった。	711	5	1～ 9
2003	7	9 ～ 10	下水道工事において、立坑の底部で直径1,350mm、長さ=2.43mの管を推進するためにジャッキの操作を行っていた者が、連絡のため地上に上がろうとしてはしご（高さ約4.5m）を昇っていたときに、立坑底部に転落し頭部をジャッキを設置していたH鋼等で強打した。	371	1	1～ 9
			推進工法による下水道工事において、直径2.6m、深さ6mの発進たて坑の			

2003	7	11 ～ 12	中に移動式クレーン（つり上げ荷重2.95t）でヒューム管（重さ250kg）を降ろしていたときに、巻き上げワイヤが切断したためヒューム管が落下し、たて坑の中にいた者に激突した。	212	4	1～ 9
2003	7	14 ～ 15	下水道工事において、掘削溝（長さ約5m、深さ約1.8m、幅約0.6m）の床面に下水管を敷設しているときに、掘削法面（のりめん）が約0.8m <sup>3</sup> 崩壊し背中まで土砂に埋まった。	711	5	1～ 9
2003	8	0 ～ 1	物流センターの雨水排水施設改修工事において、ヒューム管を敷設するためドラグ・ショベルで溝（勾配約80度、幅210cm、深さ191cm、長さ15.8m）を掘って中で均し作業を行い溝内から出ようとしたときに、幅70cm、長さ6.3mにわたり側壁が崩壊し生き埋めになった。	711	5	1～ 9
2003	9	9 ～ 10	歩道に横付けされたトラックのアオリを外す作業中に、車道と歩道間にある縁石上で足を滑らせて転倒し、側にあった簡易土止め支保工に頭を強打した。	419	2	10 ～ 29
2003	11	12 ～ 13	下水道新設工事において、幅80cm、深さ2mに掘削した溝の中でスコップで床掘りをしていたときに、砂質土の側壁が幅2.25mにわたって崩壊し、続いて、崩壊した側壁の上にあったアスファルト塊（重さ約1.2t）が崩落して胸に激突した。	711	5	30 ～ 49
2003	11	11 ～ 12	上水道管布設工事において、仮設上水管のボルト撤去作業中に掘削面の地山が崩壊し、撤去されていなかったアスファルトが滑り落ちてきて下敷きになった。	711	5	1～ 9
2003	11	13 ～ 14	土砂を4tダンプ・トラックに積んで町道（道幅約2.8m）を走行中、道路左側の約5m下の川に転落した。	221	17	1～ 9
2003	12	11 ～ 12	ドラグ・ショベルで水路敷設のためのコンクリート製U字溝をつり上げ旋回していたときに、ドラグ・ショベルが転倒し運転者とともに崖を7.5m下まで転落した。	142	1	1～ 9
		16				

2004	8	～ 17	養豚場の浄化槽新設に伴い排水管理設作業（延長300m）を行っていた際に掘削溝が崩壊し、生き埋めとなった。	711	5	1～ 9
2004	10	～ 15	14 農業集落排水管路施設工事の深さ約1.8m、幅0.9mの溝掘削部において、土止めプレートの内側の凸部（溝底部より高さ約1m）に両足を跨ぐように掛け、2段目の上部切梁のジャッキを大ハンマーを使用して回転させたとき、当該箇所より墜落した。	412	1	10 ～ 29
2004	11	～ 11	10 市道脇に雨水を通すU字溝を敷設する工事で掘削作業中に、市道脇の民家のブロック塀（高さ160cm）が基礎を残し8.5mにわたり倒壊、溝の床固め作業を行っていた被災者がブロック塀と溝の縁に挟まれた。	418	5	1～ 9
2004	1	～ 17	16 下水道工事に係るボックスカルバートの埋設作業で、地面に重ねてあった長さ3m幅1.5m厚さ0.1m重さ400kgの金属製の土止め支保工のパネルが深さ3.66mの溝の底で作業していた被災者に落下した。	391	4	1～ 9
2004	10	～ 11	10 下水管敷設工事現場内において、被災者が仮置中の土止め支保工付近で作業を行っていたところ、ドラグ・ショベルがバックしてきて、ドラッグ・ショベルと土止め支保工との間に挟まれた。	142	7	10 ～ 29
2004	1	～ 15	14 民家宅地内において合併浄化槽の埋設工事を行うため、穴（深さ約2m）に入り、ならしの作業をしていたところ、穴内部の土砂が崩れその下敷きになった。	711	5	1～ 9
2004	3	～ 17	16 塩ビ管の敷設が完了した下水道整備工事の到達立坑からカッタービット（掘削推進装置の先端部）を取り出すため、発進立坑内に設置されている推進装置と敷設した塩ビ管内のスクリュウオーガーに別のスクリュウオーガー（80cm）が取り付けられていたが、被災者が発進立坑内に入ってスクリュウオーガーの回転操作を行ったとき剥き出しの状態となっているスクリュウオーガーに作業服が巻き込まれた。	149	7	30 ～ 49
2004	2	～ 15	14 下水道管敷設工事において、土止め支保工を設置するための深さ2.8m幅90cmの溝の中で、溝の壁をスコップでならず作業をしていたところ、片側の地山が崩壊し被災した。	711	5	1～ 9

2004	10	17 ~ 18	新設工事中のシールドトンネル内で排水施設の点検中、折からの台風による集中豪雨により、溢れた雨水が下水管に予想を超えて流入したため、管路同士の接合部を間仕切りしている鋼製の隔壁に大きな水頭圧がかかり破壊され、新設管路内で排水ポンプの動作確認をしていた被災者が流された。	713	10	1~ 9
2004	1	15 ~ 16	作業構台の下にある配管（仮設トイレ下水管）を撤去する作業を行うため、構台から階段を通り地面に降りる途中で階段の手すりを乗り越え1.26m離れた高さ4.32mの梁（H鋼）に飛び移った後、梁上を移動中にバランスを崩し墜落した。	415	1	30 ~ 49
2004	12	16 ~ 17	下水道推進工事現場において、被災者は立坑下で残土積載バケットを門型クレーンに玉掛けする作業を行っていたが、上を走るバッテリーカーが、停止すべき位置を約1m逸走したため、残土バケットと立坑底部に挟まれた。	223	6	1~ 9
2004	4	3 ~ 4	コンバインドローラーを用いた道路舗装作業において、道路上で写真撮影をしていた被災者に後進中のローラーが激突した。	144	6	300 ~
2004	9	8 ~ 9	配水池耐震補強工事において、配水池内部で使用していたはしごを切断したところ貯水量監視室から搬出する前に切りくず飛散防止用のブルーシートを設置するため入口スラブに立ち、監視スペースのコンクリート壁へ足をかけようとしたところを、足を滑らせて約6m下のコンクリート床に墜落した。	414	1	30 ~ 49
2004	9	9 ~ 10	立坑築造及び管布設を行う工事において、6.5m鋼管を立坑へ移動式クレーンでつり下げ、開削管路内に横引きして仮置きする作業中、開削管路の覆工板開口部に掛けられたはしごで下りる際、はしごから約7.5m下の開削管路コンクリ床面に墜落した。	414	1	10 ~ 29
2004	10	3 ~ 4	配水管の敷設工事において機材の撤去をしていたところ、推進工用の深さ約6.5mの到達立坑に墜落した。	414	1	1~ 9

2004	8	11 ～ 12	推進工法による下水道工事において、発進立坑（内径2.1m、深さ3.1m）内で、推進機により鋼管（直径40cm）を回転させながら推進中、推進機を操作していた被災者が推進機のジャッキと鋼管との間に巻き込まれた。	149	7	10 ～ 29
2004	9	10 ～ 11	下水道管の敷設のため、不整地運搬車（最大積載荷重0.8 t）に掘削土砂を積み、運転席から降りながら運転レバーを操作し後進運転していたところ、駐車してあった貨物自動車と不整地運搬車の間に挟まれた。	227	6	30 ～ 49
2004	2	2 ～ 3	公共下水道の下水管敷設工事において、道路掘削中、地山が崩壊し、下敷きとなった。	711	5	1～ 9
2004	1	14 ～ 15	深さ3.95mの下水道工事のたて坑でライナープレートの組立中、地上の別な場所で清掃作業をしていた被災者が立入禁止のために設けられていたカラーコーンを乗り越え、たて坑の開口部の中を覗き込んだところ、墜落した。	414	1	1～ 9
2004	1	0 ～ 1	下水道管敷設工事現場から資材置場に搬入される土砂を台地状に盛り上げる作業終了後に盛土から下ろそうとした重機が転倒し、投げ出された被災者が地面と重機の天蓋との間に挟まれた。	141	1	1～ 9
2004	6	15 ～ 16	宅地内排水配管埋設用の側溝内に、レベルを測るため降りようとして滑り落ちた。	418	1	1～ 9
2004	7	9 ～ 10	下水道管路敷設工事において、縦ばりプレート方式の土止め支保工の組み立てを行うため、ダンプトラックに縦ばりプレートを立て掛けて、切りばりの取り付け金具を取り付け中、当該プレートが転倒し、その下敷きになった。	412	5	1～ 9
2004	7	11 ～ 12	下水道工事に伴う測定の補助作業において、中腰の姿勢で測定のためのピンを持っていた被災者が、背後から後退してきたドラグ・ショベルの排土板で押し倒された。	141	6	10 ～ 29
		13	下水道工事現場で、掘削の深さが約3.7mの溝内に土止め支保工を設けない			1～

2004	12	～	まま床ならし作業を行っていたところ、掘削面が崩壊し土砂で生き埋めと	711	5	9
	14		なった。			
2004	6	～	下水道管布設工事現場において、新設マンホール管（直径0.9m、深さ	364	7	1～
	16		4m）の継ぎ目部分をモルタルで充填する仕上げ作業中、マンホール壁とス			9
	17		テップにかかったツルハシに挟まれ宙つり状態となった。			
2005	6	～	道路上のマンホール内の点検作業中、トラックをマンホール近くに移動し	221	17	1～
	13		降車したところ、トラックが5m後進し、当該マンホール付近で一般車両の			9
	14		見張りを行っていた被災者がひかれた。			
2005	4	～	道路の除雪工事のため移動していたところ雪崩が発生して巻き込まれ、道	719	5	1～
	11		路下の斜面に転落した。			9
	12					
2005	10	～	下水道工事において、ドラグ・ショベルで掘削した土砂をドラグ・ショベル	142	7	10
	16		の後方に駐車させたダンプトラックに積み込むため旋回したところ、電			～
	17		工ドラムのコードを巻き取る作業をしていた被災者が、ドラグ・ショベル			29
			のカウンターウエイトとブロックとの間に挟まれた。			
2005	12	～	下水道施設調査業務において、マンホールを開け、はしごを挿入した際	418	10	1～
	9		に、深さ3.6mの下水道に墜落し、溺れた。			9
	10					
2005	12	～	整地用機械をドラグ・ショベルのバケットのフックでつり上げて地上に下	142	7	1～
	8		ろす作業をしている最中に、ドラグ・ショベルのアームと運転席ヘッド			9
	9		ガード支柱との間に挟まれた。			
2005	10	～	交差点付近で配水管工事のため、覆工板（重さ650kg）を開けた開口部の	231	4	50
	2		下で既設管まわりのコンクリートを張っていたところ、作業帯の中にタク			～
	3		シーがセンターラインをはみ出して進入し、開口部の脇に積み上げていた			99
			覆工板に衝突したため、覆工板4枚が坑内に落下し、作業中の被災者が下			
			敷きとなった。			
			土止め支保工の設置工事において、ドラグ・ショベルを用いてガイドポス			10
			11			

2005	4	～ 12	トの圧入を行っていたところ、圧入の振動により隣のガイドポスト天端に取り付けられた防護プレートが落下、立坑内で床付整形作業を行っていた被災者を直撃した。	379	4	～ 29
2005	2	～ 16	山腹に配水池を建設する現場において、ホイールローダで斜面（斜度26度）をバックで下ろうとしたところ、ホイールローダが暴走、横転し下敷きとなった。	141	2	～ 29
2005	10	～ 14	マンホール設置工事現場で、ヒューム管をつり上げ、運搬しようとしていたドラグ・ショベルが敷き鉄板の段差でバランスを失ってヒューム管が深さ2.3mの縦坑内に落ち、縦坑底部で作業中の被災者に激突した。	142	6	1～ 9
2005	4	～ 21	シールド掘進作業において、トラバーサによってロコを移動させている際に、ズリ鋼車が自然に動き出し、それを素手で止めようとしたところ、ロコとズリ鋼車との間に挟まれた。	223	7	30 ～ 49
2005	12	～ 11	コンクリート等の廃材を積んだトラックを停車して運転席を離れたところ、12度の勾配でトラックが動き出し、停車させようとしたが、トラックが縁石に乗り上げて横転し運転席側の下敷きとなった。	221	2	1～ 9
2005	2	～ 11	道路の側溝敷設工事において、掘削面の上部をドラグ・ショベルで移動中、アスファルト路面の下部が崩壊したため深さ2mの掘削箇所へ転落し、既設のコンクリート擁壁とドラグ・ショベルとの間に挟まれた。	142	1	10 ～ 29
2006	1	13 ～ 14	給水管取替工事で市道をドラグ・ショベル（0.3立米）により掘削し、被災者が掘削溝（深さ1m、幅0.5m、延長5m）内でスコップを使用し本管止水栓を探していたところ、溝手前に位置していた当該ドラグ・ショベルが溝横の土砂搬出用2tトラックの荷台にバケットを掛けていたために、発進したトラックに引きずられて動き、逃げ遅れた被災者が当該ドラグ・ショベルの下敷きとなった。	142	7	1～ 9
2006	3	17 ～ 18	工事現場において、作業員5名は、通行止めの道路を17時に開放しなければならぬため、後片付けの最中であった。ドラグ・ショベルのバケットに取り付けたフックで荷（木製矢板）を吊って旋回する間、被災者は旋回範囲外に退避していたが、被災者がドラグ・ショベルの後方に移動して	142	7	10 ～ 29

			おり、約30cm後退した際、被災者を轢いた。			
2006	4	14 ～ 15	汚水枮から下水道本管へつなぐ枝管敷設にかかる作業のため、深さ約70センチ、幅約65センチの掘削坑に被災者がいたとき、隣地駐車場に設置されたコンクリート基礎および一段積みブロックが土砂とともに崩壊し、被災者がはさまれた。	711	5	1～ 9
2006	5	10 ～ 11	宅地造成工事において下水管を布設するため、幅1.1メートル、深さ約2メートルの管路を長さ11メートルに渡りドラグ・ショベルで掘削作業中、被災者がスコップを用いて管路内で床均し作業を行っていたところ、掘削した管路東側が幅約6メートルに渡って崩壊し、土砂に埋もれた。	711	5	1～ 9
2006	7	15 ～ 16	開削溝から撤去した古い鉄製の配水管4本（内径10cm、重量計182kg）を移動させるために機体重量2.57トンのドラグ・ショベル（バケット容量0.11立方m）の専用フックにワイヤロープを掛け、配水管4本を1本づりして約1.2mの高さに上げたときに、反対車線を走行中のトラックのドアミラーが釣り荷の先に激突したため、釣り荷を支えていた被災者に釣り荷の先が激突した。	142	6	10 ～ 29
2006	8	11 ～ 12	立坑復工架設作業を行っていたところ、11時30分ごろ、被災者が休憩したいと申し出があり、少し日陰で休憩した後、仕事に戻ったが、11時55分ごろ、再度、休憩を申し出、日陰で休憩した後、現場に戻ろうとふらついているのを同僚が発見し、制止し、水をかけ、スポーツドリンクを飲ませ病院へ搬送したが、死亡した。	715	11	1～ 9
2006	9	11 ～ 12	汚水管渠敷設工事において、幅1.3m、深さ2.5m、長さ（南西―北東方向）25mの掘削底面で被災者ほか1名が5本目の雨水管を土嚢を使って固定し終えた時に、地山の掘削側面（南東側長さ1.5m高さ1m奥行き0.5mほど）が崩壊し、被災者が北西側の掘削側面と崩壊した土砂に挟まれた。	711	5	30 ～ 49
2006	9	15 ～ 16	マンホール設置工事中、マンホールのゆがみを直すために、マンホールの底から約6.5メートルの高さで、マンホール内部の昇降梯子を取り外す作業を行っていた被災者が墜落した。	371	1	1～ 9



2006	9	9 ~ 10	下水道管移設埋設後の覆工板撤去に伴う覆工板主桁及び桁受ボルトの取り外し中、ドラグ・ショベル（移動式クレーン仕様付き）で覆工主桁（H鋼－300mm×300mm、長さ3.3m重量370kg）を吊クランプ（1本掛）にて吊り上げ、旋回したところ、吊クランプが外れ、覆工主桁が落下し、桁受けボルトを取り外していた被災者にあたった。	372	4	10 ~ 29
2006	9	0 ~ 1	公共下水道工事現場において、立坑（深さ21.5m）の底部に置いてあったはしご（長さ約3.65m、重量約8kg）をロープで結んで引上げる作業中、はしごを持ち上げ後退したとき、予備水中ポンプの配水ホースを引出し配水するため、立坑上部の覆工板を外してあった開口部（3×1m、墜落防止措置等なし）から、墜落した。	414	1	1~ 9
2006	9	13 ~ 14	資材置き場において、配管敷設のため碎石を積んだ後、被災者がトラックに防護シートをかけていたところ、後方から、ならし作業をしているドラグ・ショベルに激突され、トラックとの間に挟まれた。	142	6	50 ~ 99
2006	9	10 ~ 11	コンクリート製減圧槽（高さ1.3m）の設置工事現場において、槽から1m離れた場所にある石積み（高さ1m）から奥に広がる土の斜面（勾配18度）で、被災者がドラグ・ショベル（機体重量0.7t）を運転していたところ、ドラグ・ショベルが横転して被災者と共に減圧槽と石積みとの間に転落し、被災者がドラグ・ショベルの下敷きとなった。	142	1	10 ~ 29
2006	10	9 ~ 10	配水管布設替工事現場において、機体重量4.7tの重機（アスファルトフィニッシャー）を付近の道路上に停車しようとしたが、うまく停止できずに230メートル程度走行し、その下方で作業していた被災者が轢かれた。	149	6	1~ 9
2006	10	8 ~ 9	雨水管渠布設工事において、土止め支保工に使用するシートパイル16枚1束（推定約400kg）を移動式クレーン仕様のドラグ・ショベル（つり上げ荷重1.7t）で吊り上げ旋回したところ、荷の1ヶ所を目通し吊りした玉掛用ワイヤロープがフックに掛けたアイ部分で切断し、荷の片側が地面に落下した後、もう片方が荷の介錯を行っていた被災者に向け飛	372	4	10 ~ 29

			来したため、被災者が荷の下敷きになった。			
2006	10	14 ～ 15	被災者は、資材置き場において、ドラグ・ショベル（バケット容量0.1トン）の運転席で窓から注油作業を行っていたところ、当該労働者の体がレバーに触れたために降下してきたアームに挟まれた。	142	7	1～ 9
2006	10	14 ～ 15	被災者は工事部長と2名で、貨物自動車の荷台に道板を2枚架け、ドラグ・ショベルの積み込み作業を行っていたところ、道板上に当該ドラグ・ショベルが乗った状況で道板の1枚が荷台から外れ、ドラグ・ショベルが右側地面に転倒し、被災者がバケットの下敷きになった。	142	6	1～ 9
2006	9	14 ～ 15	水道管の布設工事で、管の布設後、埋め戻しを行うため、砂を積んだダンプトラックをバックで、ドラグ・ショベルに寄せているときに、ダンプトラックとドラグ・ショベルに挟まれた。被災者は、ドラグ・ショベルの運転者で、クレーン使用のドラグ・ショベルを使用しており、被災者は布設時に使用したクレーンのフックの格納作業を行っていた。	221	7	1～ 9
2006	12	16 ～ 17	工事作業を終わり資材置場兼駐車場に帰る途中、前方の右折しようとしていた軽自動車に気づかず追突し、反対車線に飛び出したところ対面のトレーラーに衝突した。	221	17	1～ 9
2007	10	10 ～ 11	下水道管の敷設工事で、被災者は深さ約2.6m、幅約1.2m、長さ約7.2mにわたって掘削した溝に入り、下水道管の敷設位置の調整作業を行っていたところ、法肩の一部（高さ、幅とも30～40cm程度）が崩落し、土砂に埋まった。なお、地表面から深さ約1mまでの箇所には土止め支保工が設けられていなかった。その後、搬送先の病院で死亡した。	711	5	10 ～ 29
2007	7	13 ～ 14	新築住宅用の下水道管新設工事において、ビニール管（Φ20×4m）を設置中、地山（幅60cm×深さ165cm×長さ7.9m）が全長にわたって崩壊し、土砂に埋もれて死亡した。なお、土止め支保工に使用する矢板は現場に持ち込んでいたが、使用していなかった。	711	5	10 ～ 29
2007	1	15 ～	下水道管を敷設するために、道路の片側1車線をカラーコーン等によりバリケードをし、工事を行っていた。被災者がこのバリケードの内側で交通整理（交互相行）を行っていたところに、2tトラックがバリケードを突	221	17	1～ 9

		16	き破り被災者に激突した。			
2007	12	9 ～ 10	雨水幹線築造工事（開削）現場で長さ10m、重量1.5tの切梁を撤去する作業を行っていた。被災者は底にいて介錯ロープを持ち移動式クレーンでつられた切梁を誘導していたが、切梁が揺れて被災者に激突、鋼矢板との間にはさまれた。	212	6	30 ～ 49
2007	2	12 ～ 13	下水道工事において、下水管の布設にあたりマンホールの墨取りの作業を2人1組（一人が道路上、もう一人がマンホールの中）で行っていたところ、工事車両の4tトラックが後進走行してきて道路上で作業していた被災者がひかれた。	221	6	10 ～ 29
2007	1	9 ～ 10	下水道工事現場においてクレーン仕様の油圧ショベル（つり上げ荷重2.9tバケット容量0.45立方メートル）でボックスカルバート（幅149cm、高さ100cm、長さ2m、重量2t、以下「BC」という。）の据付作業を行っていた。基礎コンクリート上に仮置きしていたBCを移動させるため、専用つり金具を取付後、ロックしないままつり上げて旋回させようとした際、つり金具からBCが外れが落下し、被災者にあたった。	142	4	10 ～ 29
2007	7	16 ～ 17	国道沿いの下水道工事現場において、手元作業に従事していた被災者は、休憩時に水分を取っていたが、継続して屋外にいたために死亡した。	715	90	1～ 9
2007	2	13 ～ 14	水道管布設工事において、幅約1.2m～1.5mの山道を小型ドラグ・ショベルを運転中、路肩より小型ドラグ・ショベルと共に転落し、小型ドラグ・ショベルの下敷きになった。	142	1	10 ～ 29
2007	2	14 ～ 15	配水管更新作業において、掘削作業中、深さ約2mにある既設配水管を破損させないよう手掘り作業をしていた。土止めが設置されていなかったため、突然地山が崩壊し、土砂に埋められた。	711	5	1～ 9
2007	12	10 ～	土木工事現場でのシートパイル打設において、移動式クレーンでシートパイルを立てぶりしようとして、地面から持ち上げる途中のシートパイルが	372	4	10 ～

		11	斜めに立ち上がった状態で玉掛け用具が外れたため、シートパイルが落下し、玉掛け作業者を直撃した。			29
2007	10	13 ～ 14	掘削溝において、ドラグ・ショベルでU字溝（重量1630kg）を5cmほどつり上げた際、当該U字溝の4つの穴に掛けたつり金具のうち1つが外れ、つり金具の状態を確認していた被災者に当該U字溝が激突した。	379	6	1～ 9
2007	1	13 ～ 14	被災者は、下水道工事現場において、ドラグ・ショベル（機体重量2.04t）を運転中、運転席の右窓開口部から身を乗り出したところ、運転席右側にあるドラグ・ショベルアームが上昇し、キャブフレームとアームとの間にはさまれた。	141	7	10 ～ 29
2007	6	11 ～ 12	下水管布設工事において深さ4mの掘削床に下水管を設置するため、被災者は掘削床で下水管の調整作業をしていたが、一部掘削面が崩壊し、下敷きになった。	711	5	1～ 9
2007	4	13 ～ 14	休憩を終えた被災者は、当日午後からの作業場所である立坑底部に向かうため、土留支保工（3段目梁）上に設置された鋼製足場（高さ4.84m）を移動中、頭部を2段目梁のブラケットにぶつけ、バランスを崩して墜落した。	418	1	10 ～ 29
2007	2	9 ～ 10	住宅地造成工事現場内の交差点中央付近で水道管設備の点検作業を行っていたところ、近隣の住宅新築工事現場に資材を搬入し、帰ろうとした2tトラックにひかれた。	221	7	1～ 9
2007	2	11 ～ 12	住宅地区改良工事現場で以前埋設していたポリエチレン管に新たにポリエチレン管を接続するため深さ約1.9mの地点で管口を掃除していたところ、掘削面が崩壊し、崩壊した土砂に押され管口に激突した。	711	5	10 ～ 29
2007	6	12 ～ 13	汚水管理設工事において、立坑内で、水平方向に埋設した仮設の管内に残った泥を、当該管に挿入した推進機のスクリューを回転させることにより排出する作業を行っていたところ、立坑側で露出していたスクリューに被災者が巻き込まれた。	149	7	1～ 9
		13	下水道管の新設工事のためドラグ・ショベルで掘った幅80cm、深さ			1～

2007	9	～	2. 3 mの溝の中に被災者が1人入り、溝床面の整地作業を実施していたところ、側壁の一部が崩壊し、その土砂と側壁との間にはさまれた。	711	5	9
2007	3	～	現場で使用するドラグ・ショベルを2 t ダンプトラックで搬入し、勾配9 9 ～1 3度の路上で下り方向に停車し、運転席を離れたところ、トラックが 10 前方に逸走を始め、左前方の斜面上に左前輪を乗り上げて右側に横転した。 このとき、当該トラックの運転手であった被災者が運転席に駆け寄り、横 転したトラックの下敷きになった。	221	2	10 ～ 29
2007	10	～	被災者は、国道（片側2車線）を2 tトラックの助手席に乗り走行中、ト 11 ラックの積荷が強風により飛ばされる恐れがあったため、駐車灯を点け左 側車線に停車し、積荷等を点検していたところ、後方から走行してきた 12 3. 5 tトラックに追突され、2 tトラックと3. 5 tトラックとの間には はさまれた。	221	17	1～ 9
2007	9	～	立坑（直径1. 9 m、深さ3. 3 m）施工において、移動式クレーン仕様 付ドラグ・ショベル（つり上げ荷重0. 9 t）を使用して、地上から立坑 9 内にライナープレート（約2 0 k g）を搬入していたところ、つり上げた 10 ライナープレートが立坑脇に仮置していた別のライナープレートに接触 し、その束が立坑の中に落下して、立坑内でその荷受をしていた被災者に 激突した。	521	4	10 ～ 29
2007	2	～	12 上水道用配管を埋設する工事において、市道の一部を幅約0. 9 m、深さ 約1. 4 mに掘削した箇所で配管同士のジョイント部分のボルト締めの中 13 業中、被災作業員の側面の掘削面が崩落し、土砂の塊の下敷きとなった。	711	5	1～ 9
2007	8	～	9 工事が終了したため、被災者が2 t ダンプトラックを運転し、現場から会 社事務所へ戻る途中、交差点において、赤信号で停車中の3 t ダンプト 10 ラックに追突した。	221	17	10 ～ 29
2007	11	～	19 市道脇の斜面上で、簡易水道の水道管に水漏れがないか確認していた作業 者が、幅約1 4 m、高さ約1 5 mに渡って崩落した当該斜面上の土砂の生き 20 埋めとなり死亡した。	711	5	10 ～ 29
		8	ドラグ・ショベルで掘削作業中、旋回範囲に被災者がいることに運転者が			

2008	6	～	気が付かなくて、ドラグ・ショベルを旋回させたため、バケットと接触して被災した。	142	6	1～ 9
2008	3	～	水道管埋設工事の際、深さ約2.1mの箇所ですり止めをすることなく手掘りで掘削作業を行っていたところ、東側の掘削面が崩壊して土砂に埋もれて死亡した。	711	5	1～ 9
2008	1	～	下水道管の埋設工事において、被災者は掘削箇所（長さ7.0m、幅2.3m、深さ2.2m）の下部に立ち入って既存の下水管の蓋を外す作業をしていたところ、土止め支保工（自立状態の鋼矢板、1枚の長さ3.0m）が倒れ、崩れてきた土砂にはさまれ死亡した。	412	5	10 ～ 29
2008	8	～	既設の下水管の更正のために塩化ビニール製内管を設置する工事中、一次下請の作業員1名及び二次下請の作業員5名、計6名が下水管内に入り内管の接合部にFRP樹脂製の内張りを設置する作業を行っていた。その際、突然の大雨で下水管内が急激に増水して6名の作業員のうち5名が流された。	713	10	30 ～ 49
2008	8	～	既設の下水管の更正のために塩化ビニール製内管を設置する工事中、一次下請の作業員1名及び二次下請の作業員5名、計6名が下水管内に入り内管の接合部にFRP樹脂製の内張りを設置する作業を行っていた。その際、突然の大雨で下水管内が急激に増水して6名の作業員のうち5名が流された。	713	10	1～ 9
2008	8	～	既設の下水管の更正のために塩化ビニール製内管を設置する工事中、一次下請の作業員1名及び二次下請の作業員5名、計6名が下水管内に入り内管の接合部にFRP樹脂製の内張りを設置する作業を行っていた。その際、突然の大雨で下水管内が急激に増水して6名の作業員のうち5名が流された。	713	10	1～ 9
2008	8	～	既設の下水管の更正のために塩化ビニール製内管を設置する工事中、一次下請の作業員1名及び二次下請の作業員5名、計6名が下水管内に入り内管の接合部にFRP樹脂製の内張りを設置する作業を行っていた。その際、突然の大雨で下水管内が急激に増水して6名の作業員のうち5名が流された。	713	10	1～ 9
2008	8	～	既設の下水管の更正のために塩化ビニール製内管を設置する工事中、一次下請の作業員1名及び二次下請の作業員5名、計6名が下水管内に入り内管の接合部にFRP樹脂製の内張りを設置する作業を行っていた。その際、突然の大雨で下水管内が急激に増水して6名の作業員のうち5名が流された。	713	10	1～ 9

		13	接合部にFRP樹脂製の内張りを設置する作業を行っていた。その際、突然の大雨で下水管内が急激に増水して6名の作業者のうち5名が流された。			9
2008	3	15 ～ 16	圧送管築造工事現場において、掘削した土砂をポンプ場内広場に仮置きしてドラグ・ショベルにて盛土の上で作業中（高さ約2.5m）に旋回したところ、ドラグ・ショベルが転倒して運転者が下敷きになり死亡した。	142	1	1～ 9
2008	12	11 ～ 12	公共下水道工事（県道）の現場において、災害発生箇所のマンホール底部のインバート工を終えて蓋を閉めて一般車の通行が可能な状態（片側通行止め解除）としていた。午前11時過ぎに現場代理人である被災者が、災害発生箇所のマンホール蓋を開けて写真撮影などの作業をマンホール内に入り行っていたところ、走行していた軽自動車の運転者がマンホールに気付かずにマンホールの上を通過した際、マンホールと衝突して死亡した。	231	17	1～ 9
2008	12	17 ～ 18	アスファルトフィニッシャーを使用して埋設管路の舗装復旧作業後、被災者は当該フィニッシャーを約300m離れた駐車場所まで市道を移動させる際、当該フィニッシャーの最後部に立って運転して後進走行させたところ、市道上に転倒して後進する当該フィニッシャーにひかれた。	149	7	1～ 9
2008	10	14 ～ 15	下水道管を埋設後、土止め支保工の撤去を行い、溝内にて玉掛準備作業を行っていたところ、高さ2.1～2.2mの地山が崩壊して被災者が生き埋めになった。	711	5	10 ～ 29
2008	8	10 ～ 11	被災者は、午前10時頃から玉掛け作業などを行い、午前10時55分頃作業を一時中断した。その後、身体をシートパイルに強打した、と訴えて、うずくまった被災者を元請作業者に発見された。病院へ搬送したが死亡した。	416	2	1～ 9
2008	9	13 ～ 14	公共下水道の管渠築造工事において、深さ約2.7m、幅2.8m、長さ7.5mに掘削し、土場で組み立てられた幅2m、高さ1.5mの鋼製土止め支保工を2組入れ、土止め支保工内の掘削底面の床ならしを行っていた。被災者が土止め支保工のないところに出た時、掘削面が崩壊して被災者の胸のあたりまで崩壊土砂に埋まり死亡した。	711	5	1～ 9
			被災者は、内径1100φのPC管延長約580mの施工区間に6mm厚の復工鉄板			

2008	9	9 ～ 10	を取り付ける管路改修工事において、前日に行われたずい道内の排水作業で使用した発電機の排気ガスがたまらずい道内に立ち上がったところ、たまっていた排気ガスを吸引して死亡した。	714	12	～ 29	10
2008	9	9 ～ 10	被災者は、内径1100φのPC管延長約580mの施工区間に6mm厚の復工鉄板を取り付ける管路改修工事において、前日に行われたずい道内の排水作業で使用した発電機の排気ガスがたまらずい道内に立ち上がったところ、たまっていた排気ガスを吸引して死亡した。	714	12	～ 29	10
2008	11	14 ～ 15	配水本管の布設工事現場において、既設の水道管に新設の水道管（内径60cm）を接続するため、掘削した溝（長さ3.8m、幅1.9m、深さ1.9m）の中で既設の水道管の蓋のボルトを外していたところ、残りのボルトが切断し、管内の水が吹き出して溝が満水になった。その直後、水が既設の水道管へ逆流したため、溝にいた被災者が既設の水道管に吸い込まれて死亡した。	418	10	1～ 9	
2008	10	16 ～ 17	約10m四方、深さ6.8mの雨水ピット底部のコンクリート打設を行うにあたり、コンクリートの入ったホッパー（容積約0.8立方メートル）をドラグ・ショベルを用いてつり上げてピット内に降ろしていたところ、ホッパーをつっていたワイヤロープが切断し、ホッパーが落下して被災者に激突した。	372	4	1～ 9	
2008	5	13 ～ 14	被災者が、自社敷地内の整地工事のため機体重量2.88tのドラグ・ショベルのキャビンに乗りながら、給油のため給油キャップをはずそうとキャビンのフレームから身を乗り出したときに、被災者の身体の一部が操作レバーに触れて上げたままになっていたアームが油圧により降下してフレームとアームの間に身体をはさみ死亡した。	142	7	1～ 9	
2008	7	7 ～ 8	2.9t移動式クレーン仕様のドラグ・ショベルを車両系建設機械の運転免許を所持した作業者がクレーンモードに切り替えずに2段積み人孔管をトラック荷台に荷積みした。その際、被災者が玉外し作業をしてアームを上げた際、つり具が上部人孔管に引っかかり、上部人孔管のみがずれて中にいた	142	7	1～ 9	



			被災者がはさまれ死亡した。			
2008	12	11 ～ 12	マンホールの据え付け工事において、一旦はマンホールを据え付けたが、当初の計画における掘削深さよりもマンホールが高くなっていたため、再度、掘削する必要が出た。既に据え付けたマンホールをドラグ・ショベルで搬出した時、マンホールの接着部分が外れ、2段目のマンホール管が傾いてマンホール管内にいた被災者が2段目と3段目の間にはさまれ死亡した。	529	4	10 ～ 29
2008	11	14 ～ 15	下水道工事現場の深さ約4mのたて坑内において、土止めのライナープレートを設置するための掘削作業及び地ならし作業を2名で行っていた。その際、たて坑内西側の土砂が崩壊し、その反動で下水道管下部の基礎コンクリートの一部（重さ1.3t）がはぎ取られて被災者が当該コンクリートと土砂との下敷きになり死亡した。	711	5	10 ～ 29
2008	12	11 ～ 12	住宅新築工事に伴う給水管取出工事現場において、アスファルトの本復旧の作業終了後、使用していたドラグ・ショベルを坂道を利用してトラックに積み込む作業をしている際、左側の道板がトラックの荷台から脱落して同ドラグ・ショベルが横転し、側にいた作業者が下敷きとなり死亡した。	142	6	10 ～ 29
2008	9	14 ～ 15	汚水管の埋設工事現場で立坑掘削作業中、油圧クラムシエルの下部走行体と民家の壁との間に被災者が倒れているのを発見した。工事車両で病院に搬送した後、死亡した。被災者発見直前、現場ではクラムシエルで立坑内の土砂を掘削して4tダンプへの積み込み作業中であり、被災者は施工記録用の現場写真撮影等を実施していた。	142	7	1～ 9
2008	1	9 ～ 10	被災者が2tダンプトラックでアスファルトがらを廃棄物処理場に下ろしに行った際、ダンプトラックが林道の法面に乗り上げて横転した。被災者は横転したダンプトラックにはさまれて死亡した。	221	6	10 ～ 29
2008	2	17 ～ 18	役場庁舎のトイレ用下水マンホール等の設置工事現場で余った残土の運搬作業を4tトラックで10回程度行った。残土の運搬作業を終えた被災者は、事務所に帰るためにトラックで国道を走行中、右カーブで対向車線にはみ出して対向車のトレーラーヘッドと正面衝突し、死亡した。	221	17	1～ 9
			ずい道掘削工事（推進工法）において、湾曲部の修正を行うジャッキを取			

2008	1	15 ～ 16	り付けるためのアンカーボルト穴を電気ドリルを使用して穿孔していた。 電圧不足のためにエンジン発電機をずい道内に設置し、3名の作業員で作業 を行ったところ、同発電機付近にいた1名とその奥で作業していた2名とも 連絡が取れなくなった。その後、救出したが3名とも死亡した。	111	12	1～ 9
2008	1	15 ～ 16	ずい道掘削工事（推進工法）において、湾曲部の修正を行うジャッキを取 り付けるためのアンカーボルト穴を電気ドリルを使用して穿孔していた。 電圧不足のためにエンジン発電機をずい道内に設置し、3名の作業員で作業 を行ったところ、同発電機付近にいた1名とその奥で作業していた2名とも 連絡が取れなくなった。その後、救出したが3名とも死亡した。	111	12	1～ 9
2008	1	15 ～ 16	ずい道掘削工事（推進工法）において、湾曲部の修正を行うジャッキを取 り付けるためのアンカーボルト穴を電気ドリルを使用して穿孔していた。 電圧不足のためにエンジン発電機をずい道内に設置し、3名の作業員で作業 を行ったところ、同発電機付近にいた1名とその奥で作業していた2名とも 連絡が取れなくなった。その後、救出したが3名とも死亡した。	111	12	1～ 9
2008	4	16 ～ 17	鋳鉄管を深さ1.8mの位置に埋設した後の掘削溝の埋め戻し作業中、被災者 が同溝の中に入り、砕石の均し作業を行っていたところ、地表のアスファ ルト塊（約140kg）が崩れ落ちて被災者に当たり死亡した。災害発生時、 掘削溝は深さ約0.9mまで埋め戻されていたが、矢板等は設置されていな かった。	711	5	10 ～ 29
2008	3	11 ～ 12	水道連絡管φ1000敷設工事において、ドラグ・ショベルで約3m掘削して いた。掘削箇所脇の道路で大型トラック、トレーラー等が通行したため、 掘削箇所に幅2cm、長さ約2mの亀裂が入った。そのため、土止め支保工の 設置をすることとなり、矢板を3本打ち、被災者が掘削箇所ですべり取 り作業を行っていた。その際、土砂が崩壊して腹おこし材とドラグ・ショ ベルアーム部との間にはさまれて死亡した。	711	5	10 ～ 29
2008	12	8 ～	上水道管移設工事のため、民家のコンクリート壁（高さ1.5m、長さ9.7m） 横の道路（幅3.5m）を床掘り（幅0.6m、深さ1.2m、長さ12.1m）し、そ の中に入り計測作業を行っていた。その際、突然倒れてきたコンクリート	418	5	10 ～

		9	壁と床掘り側面にはさまれ死亡した。			29
2009	9	15 ～ 16	下水道工事現場において、簡易土止めのパネルを設置する作業中、被災者は掘削した溝の法肩部分に立っていたが、立っていた部分が崩れ、崩れた土砂とともに溝内（深さ約3.5m）に転落し、崩れた土砂に埋まった。	711	5	1～ 9
2009	4	8 ～ 9	2tトラックを運転して会社から工事現場に向かう途中、国道交差点で右折のため停車していたところ、後方より走行してきた大型トレーラーに追突され、その弾みで対向車線に押し出されて横転した。	221	17	10 ～ 29
2009	6	14 ～ 15	下水道管敷設工事において、被災者が災害発生現場そばの資材置き場から運んできた土止め支保工（重さ約970kg）の玉掛け作業を4tトラックの荷台にて行っていたところ、当該支保工がトラックの荷台のアオリからずり落ち、これに被災者が激突された。	412	5	1～ 9
2009	2	13 ～ 14	倉庫内でエンジン発電機（重量1.18t）を2tダンプカーに積み込むため、天井クレーン（定格荷重0.9t）でつり上げたところ、直径9mmの玉掛用ワイヤロープが切断し発電機が落下、その反動で発電機が被災者の方に倒れこみ下敷きになった。	372	4	10 ～ 29
2009	2	11 ～ 12	水路内法面を肩掛草刈機にて除草中、何らかの理由で水路に転落し、下流1km程流され、トンネル内から翌日発見されたが既に死亡していた。	711	1	1～ 9
2009	10	14 ～ 15	下水処理施設増築工事において、深さ約5mの汚水沈殿槽築造のための側壁型枠組立作業中、被災者は既設構築物の端部梁上（広さ121cm×94cm）にて配下作業員に対する作業指示等行っていた時、同所より増築工事側の沈殿槽内へ約5m墜落した。	414	1	1～ 9
2009	12	9 ～ 10	下水道工事に使用する碎石を土場に山積みし仮置きしていたが、碎石の山が広がってきたことから、ドラグ・ショベルを使用して山周囲の掻き揚げ作業を行っていたところ、運転していたドラグ・ショベルが前のめりに転倒し、運転者が被災した。	141	2	50 ～ 99
			谷止め堰堤工事において、掘削法面下でポイント出し作業中、被災者が法			

2009	5	14 ～ 15	面に向かってしゃがみこんで作業を行っていたところ、斜面の高さ約1.1mの位置にあった岩石（長さ約1.3m×幅約0.5m×厚さ約0.4m）が落下し、被災者を直撃した。	711	4	1～ 9
2009	11	9 ～ 10	送水管布設工事現場において、作業開始後、被災者は現場から約100m離れた空地に置いていたローラーを一人で取りに行った（ガードマンが目撃）。しばらくして、ガードマンが空地に人影がないことを不審に思い、責任者に連絡、責任者が空地に行ったところ、ローラーの下に倒れている被災者を発見した。なお、発見時には、ローラーのエンジンはかかっていた。	144	7	1～ 9
2009	9	17 ～ 18	被災者が自社倉庫敷地内の出入口付近（下り傾斜、最大勾配10度）に3tダンプカーを一時停車して、運転席から降りて移動していたところ、突然、停車していた位置から動き出し、敷地前の市道を横切り、向かいの民家のブロック塀に達する際、回り込んで止めようとした被災者がダンプカーの車両前部とブロック塀の間にはさまれ、死亡した。	221	7	1～ 9
2009	2	11 ～ 12	排水溝設置工事現場において、道路脇を幅120cm、深さ103cm、長さ730cmに明かり掘削した溝の中で、被災者2人が地均しを行っていたところ、法面が幅280cm、奥行40cmにわたって崩れて、さらに法面上方に重ねて置かれていたコンクリート製の側溝とコンクリート板（総重量約1t）が落下して被災者に激突した。	711	5	30 ～ 49
2009	8	14 ～ 15	2tダンプで採石を積みに行った際、荷台の幌を立てていたところ、後進してきたショベルに激突された。	141	6	30 ～ 49
2009	10	9 ～ 10	水道管布設工事において、幅0.6m、深さ0.8mの掘削溝の上を車両系建設機械（ブレーカー）で移動中に排土板が掘削溝に当たり、ブレーカーが横転し、被災者が運転席より投げ出され、ヘッドガードにはさまれ死亡した。	145	2	30 ～ 49
2009	1	15	一般車両の通行する片側一車線市道の片側車線箇所を、カラーコーンで囲んだ中で被災者らが水道工事を行っていたところ、対向車線を走行してい	221	17	1～ 9

		16	た第三者の軽トラックが現場内に突入し、被災者がはねられて死亡した。			
2009	2	9 ～ 10	村道の排水溝設置工事において、掘削箇所に近接した民家の既設ブロック塀の倒壊防止のため、ブロック塀をベニヤ板と単管パイプ、木材（棒）で支えていたが、排水溝設置のため、被災者が掘削箇所におりて準備していたところブロック塀が倒壊し被災者は下敷きになった。	418	5	1～ 9
2010	1	8 ～ 9	下水道工事の資材置き場で被災者は1人作業でドラグショベルを操作して、アスファルト片の移動作業中、ドラグショベルの左側クローラの傍らで左足を切断し右足を負傷した状態で発見された。ドラグショベルが逸走したとみられる。	142	7	1～ 9
2010	2	13 ～ 14	老朽化した配水管の代わりに新しい配水管を敷設する工事において、既存の配水管の位置を測定する必要があるため、幅1.14、長さ4.0、深さ2.6mを掘削し、既存の配水管がどの方向に伸びているか調べる作業をしていた。被災者は掘削してできた溝の中に入り発信器を配水管に近づけて出力の調節をしていたところ、溝内の山側の地山1.4×3.05×0.4mが崩壊し、土砂が被災者の上に落ちてきて生き埋めとなった。	711	5	1～ 9
2010	2	10 ～ 11	土木工事現場の資材置き場に積み上げたH鋼材（8.25m、1.2t）をクレーン機能付き掘削用機械で吊り上げて、当該鋼材に付着した土砂をスコップで取り除く作業を行っていた。クレーン仕様に切り替えてなく、移動した際にH鋼材が振れて被災者に激突し、後方に仮置きしてあった鋼材との間に挟まれて死亡したものの。	142	6	1～ 9
2010	2	10 ～ 11	建設工事現場において、横断歩道を徒歩で横断中の被災者を走行中の軽貨物自動車が気付かず、被災者をはねた。5日後に死亡した。	221	17	10 ～ 29
2010	7	10 ～ 11	下水道工事現場において、SPR工法で塩ビの更生管敷設作業中、接合部を確認するため製管機と既設下水道の間に頭部を入れた際、頭部を挟まれた。救急車で搬送した病院で死亡した。	149	7	1～ 9
		12	給水管の更新工事中、溝の中にいる労働者に道具の受け渡しをしていた被災者が、意識はあるが足取りがおぼつかない状態になっているのを同僚が			10

2010	8	～ 13	発見し、病院へ搬送したが熱中症により死亡した。照りつける中、日陰や風がない場所だった。	715	11	～ 29
2010	8	～ 13	午前中から断続的にゴルフ場の受水槽内の清掃作業を行い、昼休憩時に冷房の効いた自動車内で休憩していたところ、心肺停止状態となり、救急搬送先の医療機関で熱中症により死亡した。	715	11	1～ 9
2010	10	～ 14 15	下水道管の敷設工事現場において、塩ビ管（長さ4m、径150mm）を設置するために幅1.17m、長さ10.40m、深さ約3mに掘削した地山において、地山の一部が崩壊し中に入っていた作業員1名が生き埋めになり死亡したもの。災害発生時、土留め支保工（縦ばりプレート及び軽量鋼矢板）は準備されていたものの、設置する前だった。また、この時に救助を試みた他の作業員1名についても一時生き埋めになり負傷した。	711	5	10 ～ 29
2010	10	～ 13 14	雨水管布設工事現場の掘削溝内において、オープンシールド工法のオープンシールド機の組み立て作業を行っていた。被災者は当該機械の傍らで土の侵入を防止する鉄板をアーク溶接により固定していたところ、掘削箇所 の側に2段積みされた薬剤の入った立方体のタンク（1個の重量：約1.5t）が倒れて上段のタンクが被災者を直撃した。なお、雨で地盤がゆるんでいたが、タンク下には角材を地山に2本敷いたのみで、地盤の養生を行っていなかった。	611	5	10 ～ 29
2010	10	～ 16 17	水道局の浄水場において、河川水の沈殿池（取水した水に含まれる泥やごみなどを凝集剤と呼ばれる薬品を加えて凝集させ、汚泥として沈殿させる池）の改良補修工事のため、沈殿池の上澄み液を取水する開渠内にて、スクレーパを停止しないで、開渠へ取水する穴をふさぐボルトの締め付け作業を行っていたところ、被災者がスクレーパ（沈殿した汚泥の掻き寄せ機）のガイドローラーにはさまれて、圧迫され死亡したもの。	162	7	1～ 9
2010	10	～ 9	下水道枝管敷設作業において、作業初日に既設上水管の位置確認の掘削、埋め戻しを行っていた。2か所目の埋め戻しを行っている時、被災者が既設本管のマンホール内でぐったりしていたため、その場にいた事業主も口	714	12	10 ～

		10	にタオルを巻いてマンホールに降りたところ、その事業主も気を失い被災した。マンホール内に硫化水素ガスが充満していた疑いがある。			29
2010	10	9 ~ 10	上水道の敷設工事において、土工1名と配管工1名が掘削溝（長さ3.3m、幅0.7m、深さ0.9m）に入り、土工が水道管の周囲を手掘り掘削して土砂をドラグ・ショベルのバケットに入れる作業、配管工が水道管のビニール剥がし等の作業を行っていたところ、不意にドラグ・ショベルの上部回転体が旋回し、バケットが土工に激突したため、同日死亡したものの。ドラグ・ショベルの操作レバーに、オペレーターの腕に当たったか、ポケットに引っかかるなどして、不意に旋回したとみられる。	142	6	1~ 9
2010	11	12 ~ 13	下水管の布設作業中に発生した災害。被災者は、幅1m、長さ4m、深さ2.5mに亘って掘削された箇所に立ち入ったところ、土砂が崩壊し被災したものである。土留めは行われていなかった。被災者は床ならしのため、掘削箇所に立ち入ったものと思われる。	711	5	1~ 9
2010	11	11 ~ 12	ガス管布設工事において、路面掘削のためドラグ・ショベル（機体重量3.24t、標準バケット容量0.1立方m）の運転席に着いて待機をしていた被災者が、ドラグ・ショベルの窓枠（ガラスが破損していた）とブームとの間に頭部を挟まれたもの。	142	7	10 ~ 29
2010	12	11 ~ 12	市発注の污水管渠築造工事において、被災者は既設雨水管下部付近の土砂を車両系建設機械のバケットに積み込み作業中、当該車両系建設機械に乗り込もうした労働者が、運転操作方式の切り替えを行うため「マルチレバー」を操作したところ、車両系建設機械のアームが動き、バケットと既設雨水管との間に挟まれたもの。	142	7	1~ 9
2011	3	8 ~ 7	資材置場において、現場で使用するコンクリート製側溝（高さ約1m、長さ2m、重さ約1t）をドラグ・ショベルを使用してダンプトラックの荷台に積み込む作業を行う際、被災者が2段重ねした側溝の1段目の上にあがり、ワイヤロープに手を掛けているときにつり上げを行ったところ、つり上げた側溝の上部が顎に当たり、1段目の側溝の中央にある開口部から地面に墜落した。	141	6	1~ 9

2011	10	9 ~ 10	県内の事業場から県外にある個人住宅の浄化槽の設置工事現場へ向かうため、軽トラックを運転して片側1車線の県道上（緩やかなカーブ状）を走行中、何らかの原因により対向車線にはみ出し、対向してきた大型トラックと正面衝突した。被災者は全身を強く打っており、病院に搬送されたものの、同日、死亡した。	221	17	1~ 9
2011	10	10 ~ 11	下水道管敷設工事において、道路を横断するように埋設されていたカルバートボックスのベースコンクリート下方にて、人力による床付け作業を行っていたところ、ベースコンクリートが損壊して被災者に落下した。被災者は倒れるとともに、覆いかぶさった当該ベースコンクリート（131×61×9cm）により身動きがとれず、被災者の足元に溜まっていた水により溺死したものである。	419	4	1~ 9
2011	10	8 ~ 9	トラックで運搬してきた車輻系建設機械（バックホウ）を、荷台から降ろす作業中に発生した災害。被災者が自ら車輻系建設機械を運転し、トラックの荷台から道板を使用して地面に降ろそうとしたところ、道板が荷台から外れ、その拍子に被災者が車輻系建設機械とともに地面に投げ出され、直後に転倒した車輻系建設機械に巻き込まれ死亡したものの。	142	1	1~ 9
2011	8	9 ~ 10	被災者が地上から約1.8mの深さ付近の掘削溝で、手堀りにより掘削作業を行っていたところ、被災者背後の掘削面が崩壊するとともに、歩道の縁石が崩壊し、被災者頭部が崩壊した縁石と掘削面に挟まれたもの。	419	5	1~ 9
2011	1	17 ~ 18	当該工事は雨水管及び污水管を約15メートル敷設する工事で、管敷設、埋め戻し後の路盤工事において、路盤材（碎石）をドラグ・ショベルで敷き均していたところ、ドラグ・ショベル後方にいた被災者と後進してきたドラグ・ショベルが接触して被災した。病院搬送後、1月29日に死亡。	142	6	10 ~ 29
2011	4	15 ~ 16	山中の小川から水を民家の貯水タンクへ引くため直径20ミリメートル、長さ120メートルのパイプ7本（840メートル）とため池用ポリタンク（100リットル）を設置する工事において、被災者は、山中にポリタンクを設置するために使用するセメント袋（約6キログラム）を抱えて、山の斜面を歩いて移動していたところ、約10メートル下の谷へ墜落し、	711	1	1~ 9



			被災したものの。			
2012	5	11 ～ 12	下水道工事において、簡易土止めを行い掘削し下水管を埋設した。土を埋め戻すため、簡易土止めをまたぐ形でバックホーを前進させたところ、地盤が陥没しバックホーが前方に傾いた。その際、バックホーのバケットが被災者の背中に激突した。	142	6	1～ 9
2012	3	13 ～ 14	下水管及び汚水管の布設のため、幅が約2m、深さ約3mの溝状に重機を用いて掘削し、その後、被災者が床づけ作業のために掘削底に立ち入ったところ、側面が崩落し、胸部圧迫により死亡した。	711	5	10 ～ 29
2012	2	10 ～ 11	下水道管取替工事において、バックホーにて市道を開削工事中、約3m掘り下げた際、被災者は溝内に降り、下水管の状態確認作業を行っていたところ、掘削側面が崩落し、脳挫傷にて死亡した。	711	5	1～ 9
2012	1	17 ～ 18	シールド2次覆工における坑内電線撤去作業中、牽引中の電線台車が転倒し、電線台車の横にいた作業員が台車の下敷きになって死亡した。	391	5	1～ 9
2012	6	13 ～ 14	被災者は下水管を埋設する作業において、ドラグ・ショベルでアスファルト舗装の道路を深さ2.1m掘削した床の長さを計測するため掘削した溝に入り、計測後に溝から出ようとした際、掘削した溝の片側の法面が崩落して頭部に崩壊した土砂等が当たり、脳挫傷により死亡した。	711	5	10 ～ 29
2012	5	9 ～ 10	住宅市街地総合整備事業におけるよう壁築造工事において、車両系建設機械で床掘した場所に被災者を入れ、スコップを使用して掘削面を調整していたところ、L字型に隣接する法面（高さ約5m）が崩壊し、被災者が生き埋めとなった。直ちに救助し、救急搬送したが、搬送先の病院で頭蓋骨骨折、脳挫傷のため死亡した。	711	5	10 ～ 29
2012	3	11 ～ 12	汚水管の布設のため、ドラグ・ショベルにて深さ2m以上の明かり掘削を行った後、被災者が掘削溝内に入り排水ポンプ設置のため掘削溝底部を10cm程スコップで掘っていたところ、側壁が崩壊し被災した。	711	5	10 ～ 29
			下水道の配管敷設工事において、被災者は深さ1.5m～1.9mの溝の			

2013	5	10 ～ 11	中で、既設の水道管の位置の確認のため剣先スコップを使用して掘削作業中に、掘削法面が崩壊し、土砂に押され、姿勢を崩した時に被災者が持っていたスコップの柄が被災者の腹部にあたった。被災者は、立った姿勢で膝の高さまで埋まり、救助され病院へ搬送されたが、内臓の出血により死亡した。	711	5	1～ 9
2013	5	0 ～ 1	既設水路と下水本管を接続するための直径800mmの鋼管の中で、鋼管推進作業中に遭遇した地中障害物の探針を行っていたところ、意識を失い、その後救出され搬送されたが死亡した。尚、司法解剖の結果、死因は急性硫化水素中毒であることが判明した。	714	12	30 ～ 49
2013	12	10 ～ 11	下水道工事の仮設電源の設置のため、被災者が電線から電気の引込み線を取付ける作業を、高さ7～8mの電柱上で行っていたところ、地面に墜落した。尚、作業箇所周辺の活線は100Vで、被災者は電柱作業用の安全带、墜落・感電防止用の保護帽、ゴム底の安全靴、ゴム手袋を着用していた。また、作業は被災者が電柱上で引き込み作業を行い、他1名が地上で仮設の電気ボックスを取付け、引き込んだ電線とを接続する作業等を行っていた。	351	1	30 ～ 49
2013	1	16 ～ 17	用水管付替工事現場において、縦3.4m、横2m、深さ約3mの大きさに掘削された穴の中で、1次下請業者の労働者が配管の付替え工事を行っていたところ、縦方向面の壁が崩壊し被災者に激突した。	711	5	1～ 9
2013	10	14 ～ 15	公共下水道工事にかかる事前調査として水質調査を行うため、ボーリングマシンを使用しケーシングパイプを地面に挿入する作業を行っていたところ、ボーリングマシンの回転部に作業着が引っ掛かり巻き込まれた。	142	7	1～ 9
2013	11	0 ～ 1	夜間の道路工事において、ドラグショベルで道路を掘削し、アスファルトのガラを旋回して後方の4トンダンプトラックへ積み込む際、アスファルトのガラが落下して付近で作業を行っていた被災者が下敷きになった（重さ約1.2トン）。	142	4	1～ 9
2013	10	14	農業用水路の築造工事において、被災者は配管を埋設するために掘削した溝（深さ2m90cm）の内部で配管の接続作業をしていたところ、掘削	711	5	1～

		15	溝の壁面の縁石が土砂と共に崩落、生き埋めとなった。			9
2013	12	15 ～ 16	水道管敷設工事で、道路の埋め戻しのため溝を跨ぐ形でドラグショベルを後進させていたところ、歩道側の路肩が崩れ、横転したドラグショベルの運転席と歩道の縁石の間にはさまれた。	711	1	1～ 9
2013	10	14 ～ 15	建設現場（作業内容は、水道管敷設工事における水圧試験）へ水を運ぶため、近くの給油所で給水した水（50リットル）を軽トラック荷台のタンクに入れ運転中、軽トラックが反対車線に逸脱、電柱に衝突した。	221	17	10 ～ 29
2014	12	12 ～ 13	溝掘削内にて、被災者が立ち入ったところ、溝側部の地山が崩壊し、上部にあったアスファルト塊及び土砂が被災者の腹部に落下した。	711	5	1～ 9
2014	11	11 ～ 12	下水道工事中、L型擁壁脇を開削していた際、擁壁が倒壊し、開削部分にいた被災者ら2名が擁壁に激突され、1名が死亡した。	418	5	1～ 9
2014	10	9 ～ 10	軽貨物自動車を運転し、建設工事現場に向けて走行中、カーブで対向車線を越え、電柱に激突した。	221	17	1～ 9
2014	8	9 ～ 10	旋回したドラグショベルと電柱との間に挟まれ、死亡した。	142	7	50 ～ 99
2014	7	9 ～ 10	地中下水管設置の際、溝を測定しようと、被災者は溝の内部に入り、測定作業を行っていたところ、掘削溝の側壁の片側が崩壊し、土砂に埋もれた。	711	5	1～ 9
2014	5	11 ～ 12	下水道の敷設工事にて、既設部の人坑（マンホール）内に設置したエンジンポンプでたまった雨水を排水中、白いガスが充満し排水できなくなった。被災者は、ガスが晴れた後に人坑内に入ったところ、意識不明となり、死亡した。	514	12	10 ～ 29
		11	機材をトラックに載せ、トラックで自動車道を走行中、カーブに差し掛			

2014	4	～ 12	かったところ、ガードレールをなぎ倒し、運転席を下側にした状態で横転した。	221	17	1～ 9
2014	3	9 ～ 10	下水管工事現場にて、被災者は、到達立坑内（深さ約7m）の作業を開始するため、立坑内に収納していたタラップの手すりを引き上げる作業中、立坑内に転落した。安全帯は装着しておらず、立坑周囲に墜落防止用の柵、安全帯設備等は無かった。	418	1	30 ～ 49
2014	2	13 ～ 14	下水管敷設工事にて、污水管設置位置の掘削作業を行っていた被災者は、掘削溝内で支障となる配管の有無を確認作業中、掘削溝東側の掘削壁面が崩落し、支えを失ったアスファルト塊が落下し、被災者の頭部に激突し、死亡した。	711	5	10 ～ 29
2014	2	11 ～ 12	污水管の補修作業を行うため、被災者が巻き上げ装置のスイッチを入れてドラム（直径18cm）を回転させ、ワイヤロープ（直径12mm）をドラムに巻きつけた際、着用していた皮手袋の先端がワイヤロープとドラムに挟まれ、体ごと巻き込まれた。	219	7	1～ 9
2014	1	9 ～ 10	マンホール内のピットにて、並列して2本設置されている下水道管のそれぞれに設置されている空気抜き弁のひとつを交換すべく、バルブの取り外し作業をしていたところ、硫化水素と下水が吹出し、硫化水素を吸い込んだ4名が中毒となり、そのうち1名が死亡した。	514	12	1～ 9
2015	3	9 ～ 10	移動式クレーンの運転者であった被災者が、何らかの理由で移動式クレーンの窓から身を乗り出していたときに移動式クレーンのジブが上昇し、頭部と左腕を挟まれ、死亡した。被災者が窓から身を乗り出した理由は不明。災害発生時、被災者は移動式クレーンを運転して現場に到着した直後であり、作業開始前であった。アウトリガーを張り出す前であり、ジブを動かす必要もないことから、ジブを動かした理由も不明である。	212	7	1～ 9
2015	11	14 ～ 15	ドラグショベルにより減圧槽基礎の床掘作業中、勾配約20度、高低差最大約50センチの傾斜地で進行方向（ドラグショベルの後方向き）に転倒し、ドラグショベルのキャビンの支柱と地面に、被災者の右肩から胸部あ	142	2	10 ～ 29

			たりを挟まれて死亡したもの。			
2015	10	9 ～ 10	下水配管の敷設現場において1人が溝内で作業中、側面の土砂が崩壊して埋まったため、地上にいた4名が溝内に入って救助していたところ、2度目の崩壊が発生。救助に入った4名のうち2名は難を逃れたが、1名は土砂とともに崩壊したアスファルト片が腰に当たって負傷し、1名は逃げ遅れて土砂に巻き込まれて死亡した。また、当初埋まった労働者も死亡したもの（死亡2名、負傷2名）。	711	5	1～ 9
2015	8	16 ～ 17	下水道管布設工事現場で発進立坑内において、作業を行っていた労働者が横穴掘削推進機のスクリー（直径φ150）に上半身の一部を巻き込まれているところを発見された。	149	7	10 ～ 29
2015	6	9 ～ 10	車両系建設機械（移動式クレーン仕様）を使用して鋼材をクランプの1点吊りで水平移動させていたところ、鋼材を誘導していた被災者が地面に置いていた鉄板の段差でつまずき転倒した際、鋼材に手を掛けたことで荷ぶれが発生し、振れた荷に激突されて被災した。なお、被災時、車両系建設機械はクレーンモードに切り替えられていなかった。	142	6	10 ～ 29
2015	1	11 ～ 12	民家の下水管布設工事現場において、掘削溝（幅60センチメートル、長さ6.8メートル、深さ1.5メートル）の側壁が崩壊し、溝の中にいた労働者2名が土砂に巻き込まれたもの。	711	5	1～ 9
2015	7	10 ～ 11	下水道管の更新工事に伴い、地下に埋設された管の撤去を行うため、道路をドラグショベルで開削（長さ6.7m、幅2.1m、深さ2.5m）し、山留のためにドラグショベルで鋼矢板を打設した後に、被災者と同僚の2名で溝内に入り、腹起し角パイプを取付け、切ばりを取付けようとしていたところ、土止め支保工が崩壊し、鋼矢板と腹起しの間に首がはさまれた。その後、救出され病院へ搬送されたが同日午後1時17分に死亡した。	412	5	10 ～ 29
		16	市企業局管理の温泉供給設備において、市職員2人が造成塔で湯温等調整作業したが、温泉を送る引湯管の流れが悪く市職員から被災者へ架電し引湯管の空気抜き作業を依頼。被災者は14時頃作業員1人と造成塔から2			

2015	3	～	00m引湯管を下った雪に埋まった空気抜弁設置箇所と思われる場所で作業開始。2人は雪を掘り（雪穴：縦1×横1.8×深2（m））雪穴で作業中被災。その後市職員が造成塔から下りて2人を発見し救助中1人が被災。	514	12	1～ 9
2015	9	～	給水管敷設工事の準備作業として、工事場所脇の空地に敷鉄板を敷設するため、最大つり上げ荷重0.81tの移動式クレーン機能付きドラグショベル（クレーン機能付きバックホー）で荷重約450kgの敷鉄板を吊り上げ旋回していたところ、ドラグショベルが転倒し、被災者は運転席から投げ出され、運転席のヘッドガードと地面に頭をはさまれた。	142	2	1～ 9
2015	10	9 ～ 10	下水配管の敷設現場において1人が溝内で作業中、側面の土砂が崩壊して埋まったため、地上にいた4名が溝内に入って救助していたところ、2度目の崩壊が発生。救助に入った4名のうち2名は難を逃れたが、1名は土砂とともに崩壊したアスファルト片が腰に当たって負傷し、1名は逃げ遅れて土砂に巻き込まれて死亡した。また、当初埋まった労働者も死亡したもの（死亡2名、負傷2名）。	711	5	1～ 9
2016	9	14 ～ 15	新設水道管を布設する工事において、深さ約1.45m、幅約0.9mにて掘削した箇所に入り、布設した水道管を微調整するため、管下をスコップを使って掘っていたところ、側面の土壁が幅約0.5m、長さ約1mに渡り崩れ、被災者の腰から下が埋まった。	711	5	10 ～ 29
2016	5	8 ～ 9	トラック荷台に積み込まれていた小型バックホーを荷台から下ろす作業に際し、バックホーの運転を行っていた被災者が、バックホーごと転落し、バックホーのキャビンに備え付けられたヘッドガードに腕を挟まれた。	142	1	10 ～ 29
2016	4	9 ～ 10	被災者は、元請事業場の社長等と計6人で上下水道の配管設置工事を行っていた。設置する配管は（公道下）地中の既設配管に繋ぎこんで設置をするため、元請事業場の社長がドラグショベルを運転し公道の掘削をしていた。約1.5mの深さまで掘削を終え、掘削溝内に土止め用鋼矢板を設置するために鋼矢板の上部をドラグショベルのバケットで押し込んでいたと	142	6	10 ～ 29

			ころ、バケットが（鋼矢板から外れ）掘削溝内にいた被災者に激突した。			
2016	4	15 ～ 16	被災者は、ランマー（エンジンを使用した上下動の衝撃によって地盤を締め固める手持ち機械）を使用して地盤を締め固めていたところ、通行止め の看板及びバリケード（カラーコーンとバーとを組み合わせたもの）を 突破してきた乗用車に激突され、停車していた4 t ダンプカーと当該乗 車との間にはさまれ死亡した。	231	17	10 ～ 29
2016	1	23 ～ 24	建築物の雨水排水管の詰まり（ヘドロ等によるもの）を除去するため、敷 地内に設けられた人孔（湧水、雨水、汚水の集合させる柵）に被災者が立 ちいていたところ、突然、湧水が流入し、被災者が人孔内で溺死した。	391	10	10 ～ 29
2016	1	10 ～ 11	被災者は、資材置き場内の片付け作業のため、車両積載型トラッククレー ンの荷台上に積載された積み荷（ロットと呼ばれる土木工事用の鋼製ドリ ル、約250キログラム）を、同僚作業者の運転する同移動式クレーン （定格荷重2.9トン）を用い荷の積下ろし作業を行っていたところ、玉 掛け用ベルトスリングが破断し、積み荷が落下、もって被災者はその下敷 きになった。	372	4	10 ～ 29
2017	11	4 ～ 5	道路に下水道のマンホール及び管を設置する工事現場で、作業員2名が、 幅1.1メートル、延長2.2メートル、深さ3.6メートルの掘削箇所 の中で管の接続作業をしていたところ、掘削側面の土砂が崩壊し、土砂の 下敷きとなり、作業員1名が死亡した。	711	5	1～ 9
2017	9	12 ～ 13	下水道管を付設する工事において、掘削溝の幅95センチメートル、長さ 約2メートル、深さ約2.3メートルの土止め支保工が設置されていない 箇所で作業員が下水道管の下側に砂利を敷き詰める作業に従事したとこ ろ、地山が崩壊し、死亡した。	711	5	1～ 9
2017	7	16 ～ 17	雨水調整池の水槽内で、電気設備取付けのための足場の組立て作業を行っ ていた被災者が、中間梁（高さ6.4m）から墜落した。	415	1	1～ 9
2017	5	12 ～	資材置き場において、被災者はトラックの右後輪に挟まれて死亡した。	221	7	1～





2018	3	16 ~ 17	市発注の下水道工事（L = 600m）において、民家へ引き込むための取出し管（事前に本管に取り付けていた）周辺の掘削（最深部でH = 1.7m）を行っていたところ、手掘りをするため掘削溝内に入った際、突然、碎石・土砂（H = 0.8m × W 0.5m）が崩壊し、被災者の首付近に直撃した。崩壊した碎石・土砂は、上部40cmが碎石であった。	711	5	1~ 9
2018	2	10 ~ 11	クレーン機能付きドラグショベル（以下重機と呼ぶ）を使用して、トラックの荷台に積まれたH鋼（長さ350センチメートル、重さ280キログラム）を資材置場に卸す作業中、H鋼を保持していた玉掛け作業員である被災者が、H鋼が傾いたため、あわててH鋼に駆け寄った際、転倒して重機前方にうつぶせになった直後、つり荷がクランプから外れ、重機の運転席に落下して操作レバーを動かし、重機が前進し被災者をひいたもの。	212	7	1~ 9
2018	1	10 ~ 11	下水道敷設工事の発進立抗の埋め戻しに伴って設置される人孔（深さ約5.8メートル。）の開口部周辺において、被災者が、撤去された立抗の土留支保工の部材の整理や、当該開口部に養生として置かれていたコンパネ等を人孔の上部部材を設置するために撤去していたところ、人孔に墜落した。	414	1	1~ 9
2019	12	2 ~ 4	下水道管工事現場にトラックが突っ込み、警備員2名（うち1名死亡）がはねられ、さらに停止していた工事車両に追突し、当該車両の付近にいた作業員4名（うち1名死亡）と警備員1名も巻き込まれたもの。	221	6	10 ~ 29
2019	12	12 ~ 14	下水道工事現場の掘削溝内（幅0.95m、深さ1.6m）で土止め支保工の軽量鋼矢板の設置準備のため、被災者と同僚1人が溝内に降りて準備しているところに、側壁が崩落（高さ1m、幅2.8m、奥行き0.73m程度）し、被災者の身体全体が崩落土砂に埋もれたもの。	711	5	1~ 9
2019	10	12 ~ 14	下水道工事現場に近接する道路上で転倒し、後頭部を強打した。	417	2	10 ~ 29
			農業用水路配管（塩ビ管、L = 5m、Φ250mm）を布設するため、ドラグショベルで、溝（H = 2.7m × L = 3m、W = 1m、勾配75~7			

2019	10	16 ～ 18	8度)を掘削し、労働者2名が掘削溝の底でスコップで床均し、計測を行っていたところ、当該配管を埋めるために堆積していた左岸の掘削土と掘削面の一部が崩壊し、当該作業を行っていた労働者2名が生き埋めとなった。	711	5	10 ～ 29
2019	10	16 ～ 18	農業用水路配管(塩ビ管、L=5m、Φ250mm)を布設するため、ドラグショベルで、溝(H=2.7m×L=3m、W=1m、勾配7.5～7.8度)を掘削し、労働者2名が掘削溝の底でスコップで床均し、計測を行っていたところ、当該配管を埋めるために堆積していた左岸の掘削土と掘削面の一部が崩壊し、当該作業を行っていた労働者2名が生き埋めとなった。	711	5	10 ～ 29
2019	6	8 ～ 10	屋根の冷却用スプリンクラー設置工事のため、スレート屋根上で配管の設置作業していた被災者が、スレートを踏み抜いて約5mの高さから墜落したものの。	415	1	1～ 9
2019	6	14 ～ 16	上水道入替工事が完了し、発注者による完了検査前の最終確認のため、被災者1名で、交差点付近を確認していたところ、自動車にはねられたものの。	231	17	1～ 9
2019	5	8 ～ 10	下水道工事で污水管の埋戻し作業中、ドラグショベルの足元の地盤が崩れたため、ドラグショベルが前方に傾き、そのバケットが掘削溝の簡易土止めの中で地ならし作業を行っていた被災者に激突した。	142	6	30 ～ 49
2019	4	8 ～ 10	排水管のレベル調整のため、床掘りを2名で行っていた。被災者がクワで作業を行っていたところ、掘削面(深さ約1.7m)の最大奥行約0.6m、幅約4.7mの土砂が垂直に剥離崩壊し、土砂に埋もれたもの	711	5	10 ～ 29
2019	3	10 ～ 12	被災者は、水道管布設工事のため、深さ約1.5mの掘削した溝の中で計測作業に従事していたところ、埋設されていたコンクリート擁壁(高さ約1.05m、長さ1.17m、幅約0.51m:重量830kg)が突然倒壊し、壁との間に挟まれて死亡した。	711	5	1～ 9
		14	災害場所の人孔内に設置された枠組足場を解体中、移動式クレーンを用い			10

2019	2	～ 16	て単管パイプ（5本）を荷揚げしていたところ、当該単管パイプが荷崩れを起こして落下、その落下した単管パイプが被災者に当たったかは不明であるが、枠組足場上にいた被災者が約20メートル下に墜落したものの。	411	1	～ 29
2019	2	～ 10	ケーブルクレーン（つり上げ荷重1.4トン）を使用して、土砂（総重量は0.5トン未満）の運搬を行っていたところ、主索をワイヤロープで水平方向に引っ張っていたシーブが破損したため、主索が垂下し荷が落下。ウインチが巻上索及び横行索に引っ張られて河川に落下したため、運転者が5.8メートル下の河川内に墜落した。	211	1	～ 29
2020	10	4 ～ 6	被災者が3tトラックにて建設資材（アスファルト合材2.9t）を運搬していた際、トラックが歩道に乗り上げ、道路標識に衝突した。	221	17	1～ 9
2020	8	～ 12 14	下水処理施設の設備耐震化工事の準備工事において、角落し（水をせき止めるための厚さ約10センチの板。）を水路内に吊り下ろす作業中、被災者は水中の角落しの設置状況の確認及び玉外しを行うため、角落しの上流側の水深約3メートルに潜水していたところ、水流により角落しを乗り越えて浮き上がり、命綱により同僚に救出されたが、死亡したものの。	713	10	1～ 9
2020	8	～ 14 16	工事現場で発生した建設残土を施設跡地内残土処分場に仮置きし、被災者はドラグ・ショベルで残土均し作業を行うため仮置き場所に常駐していた。作業中に作業場所が崩れ落ち、大きく開いた穴（直径約4.5m、深さ約3.0mの穴）にドラグ・ショベルごと墜落し、水抜き後、泥に埋まった運転室内で遺体が発見された。	418	1	～ 29
2020	6	～ 12 14	上水道の配水弁室（管路の減圧弁等を設置する部屋）の新設工事において、同室を設置するための立坑を地上よりドラグ・ショベルを用いて掘削中、掘削場所を変えるため、機械を前進させたところ、前方にいたダンプトラックに激突しそうになったため、ミッションを中立にしようとしたが、誤って後進に入り、機械が後退して深さ約3.4mの立坑内へ転落したことから、内部で作業していた被災者が下敷きとなったもの。	142	6	1～ 9
			下水道の推進管の完成写真撮影のため作業員2名が発進立坑から到達立坑			

2020	5	8 ～ 10	<p>に向かって推進管内を移動（1名は途中で引き返し）し作業していたが、硫化水素が到達立坑内に地下水と共に漏出していたため到達立坑付近で1名が硫化水素を吸引し硫化水素中毒により死亡した。死亡者を救助するため4名、発進立坑内で作業等をするため6名が立坑内に入り、救助を行った2名が休業災害、他8名が不休災害となった。</p>	514	12	10 ～ 29
2020	4	18 ～ 20	<p>工場内の雑排水処理用の配管設置作業において、ドラグショベルで掘削（幅1.4m長さ19.4m深さ約2.7m）後、被災者を含む2名が掘削面の下方で配管設置作業を行っていたところ、東壁面の地山（高さ2.5m×長さ2.45m×幅1.2m）が倒壊し、被災者が土砂の下敷きとなったもの。なお、もう一人の作業者は脇腹から下が埋まったが無事であった。</p>	711	5	1～ 9
2020	4	8 ～ 10	<p>下水道管を埋設する工事。950mm（幅）×4000mm（奥行）×1700mm（深さ）をドラグショベルで掘削した箇所で、作業員2名が土止め支保工の腹起し部材を取り付ける作業をしていたところ、背後の地山が500mm（幅）×4000mm（奥行）×1700mm（深さ）に亘って崩壊し、1名が崩壊した土砂と腹起し部材との間に挟まれて死亡した。</p>	711	5	10 ～ 29
2020	4	10 ～ 12	<p>被災者は、移動式クレーンで移動されたヒューム管（直径180cm, 内径150cm, 幅78cm, 重量1.3トン）の玉掛け用具を外し、ヒューム管を保護するためのカバーを外そうとした際に、同ヒューム管が倒れてきて、その下敷きになり、頭部挫傷のため死亡した。</p>	529	5	1～ 9
2020	2	2 ～ 4	<p>アスファルトプラントに資材を引き取りに行き、ダンプトラックから事務所受付に行くため歩行中に、労働者が運転するバケットに資材を積み込んだ車両系建設機械（トラクターショベル）に轢かれて死亡したものの。</p>	141	6	1～ 9
2020	2	14 ～ 16	<p>汚水管渠埋設工事において、推進工法により到達立坑まで管を貫通させ、管内の土砂を取り除くために管内のスクリーを回転させていたところ、到達立坑内で管のパッキンの締め直しを行っていた被災者の服が、回転するスクリー部分に巻き込まれ、脇腹部圧迫により窒息したものの。</p>	149	7	1～ 9

2020	2	14 ～ 16	被災者は、幅1.1m、深さ3.5mに掘削した掘削床で下水道管の埋設作業を行っていたところ、掘削面が崩壊し、崩れた土砂に埋もれ死亡したものの。	711	5	1～ 9
2020	1	10 ～ 12	被災者及び交通誘導員の計2名で下水管の清掃作業を行っていた。被災者が深さ3.5メートルのマンホール内に入り、作業が終了したので、マンホールから地上へ出ようとしたところ、頭部を一般車両に轢かれ、マンホール内へ墜落した。	231	17	1～ 9

出典：[https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen\\_pg/SIB\\_FND.aspx](https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/SIB_FND.aspx)(職場のあんぜんサイト)

[https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206\\_03.html](https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_03.html)に戻る。